猶太人問題

文学博士 新見吉治著

新見吉治著

猶太人問題

中央融和事業協會

猶太人問題 目次

猶太人問題

文學博士　新見吉治著

(一) 叙　言

明治天皇御製に

古のふみ見る度に思ふかな己が治むる國はいかにと

石の上ふるきためしを温ねつゝ新らしき世の事も定めむ

今の世に思ひくらべていそのかみふりにしふみを讀むぞ樂しき

といふ御歌がある。歴史を溫故知新の學問として御研究遊ばされやうさいふ御精神を御詠みになつたことゝ拜誦します。

人間の知識は過去の經驗の積み重ねである。古人の經驗に徵して成功の跡を

學び、失敗を重ねないやう工夫することは、歴史の學問の應用である。

先年米國にて移民法を立てゝ我が國民の差別待遇を敢てした時、我等は血を沸かして抗議をなし、今も尙ほかの國民の反省を要求して居る。吾人の主張は人種無差別機會均等に存する。併し内に省みると、我が國には明治維新に賤民の稱を廢して機會均等の制を定められたにも拘はらず、尙ほ少數同胞を差別するの慣習が一掃せられるに至らないで、融和問題といふことが社會の重要問題となつて居ることを發見する。我等は先づこの矛盾を解決しなければ、世界に向て人種平等の原則を提唱する資格はないといはねばならぬ。

さて融和問題の解決について吾人の參考になる事例は數多いことであるが、西洋に於ける猶太人の歴史もその一である。

猶太人といふは白人種ではあるが、西洋に於ては別人種として差別せられて、多數民から嫌忌せられて居る。又今日は隱謀民族など稱して非常に危險視

する言說が、我が國にまで西洋から傳はつて來て、酒井將軍氏著「猶太人の世界征略運動」同氏著「猶太人の大隱謀」包荒子著「世界革命の裏面」北上梅石氏著「猶太禍」などゝいふ書物が出版せられて居る。猶太人は何故に嫌忌せられ、又何故に危險視せらるゝのであらうか。暫く歷史的にこの問題を研究調査して見たいと思ふ。

（二）猶太民族の興亡

猶太民族といふは亡國の民族である。二千數百年來獨立を失つて今は世界に散在して居るのであるが、他民族と婚姻をしないで、全く純粹の血液を保持して居ることは、歷史上他に類を見ないところである。

猶太民族はヘベライ民族とも、イスラエル民族ともいひ、白人種なるセム人種の一派で、多數の西洋人の屬するアールャ人種一名印度歐羅巴人種とは別系

統に屬するものである。從て西洋人を多く見慣れた人は、猶太人を一目見て猶太人だと判別し得らるゝほど、他の白人とは著しい相違がある。即ち猶太人の特質として、毛髮は豊富で黑く、男子には鬚髯が多い。皮膚は白いが淺黑味を帶びて居り、瞳は黑い、鼻は隆くて其の先が尖り、且つ下に垂れて鷲の嘴のやうに曲つて居る。猶太人の釣鼻などゝいふて、鼻は猶太人の容貌の特色中の特色と目せられ、西洋では猶太人を象徵するには、曲つた大きな鼻を畫くことゝなつて居る。併し露西亞に居る猶太人でもギリシャに居る猶太人でも、百人中六十乃至八十人は眞直なる鼻筋の通つたギリシャ鼻を持つて居るから、釣鼻を猶太人の特色とすることは出來ぬといふ論もある。何れにせよ、猶太人の鼻の著しく曲つて居ない者の容貌は、日本人の目から見ると、いかにも好男子に見える。又日本人の男振りのよい人は西洋人からは猶太人でないかと疑はれるほど似たところがある。

この猶太民族の原住地はアラビヤ沙漠であつた。元來游牧生活をして居つたのであつたが、メソポタミヤ地方に出で更に西してパレスチナの方へ移住したのは紀元前一四〇〇年の頃であつたやうに思はれる。キリスト敎の聖書舊約全書(創世紀)にはアブラハムが引率して移住したやうに書いてある。その後南部に往つた者が、埃及國領内に移住して游牧して居つたが、埃及國王から奴隷の境遇に落されて虐待せられた。猶太人の中にモーゼといふ者があつて、エホバといふ神様の命を奉じて、猶太人を救ひ出さうとした。この時神様が色々の奇蹟を表はして埃及國王及び埃及人民を苦しめた。國王は遂にモーゼの乞を許して猶太人の埃及退出を許した。モーゼは猶太人を率ゐて紅海を横ぎつてアラビヤに渡つたとき、海水が左右に分れて、屏風をたてたやうになつて、徒渉が出來たが、後を追つて來た埃及兵が同じくその道を渡らうとしたとき、水が兩側からかぶさつて、皆溺死した。モーゼの一行はかやうに神様の加護を受けて

虎口を逃れ、それからシナイ山で神樣から十戒が授けられ、再びパレスチナの地へ歸り住むやうになつたことは舊約全書出埃及記に見えて居る。

この頃の猶太民族は血緣の團結であつて、族長政治の制度が行はれて居たが、紀元前一〇二五年の頃サウルといふ人が初めて王位に上り、その繼承者ダビデの時初めてエルサレムに築城した。この頃國勢大に振ひ、その周圍の敵國を征服し、其の領土は地中海よりエウフラテス河に達した。ダビデの子ソロモン王は豪奢を極め、國民に重税を課した。ために國民に不平が起り、その死するに及んで紀元前九三〇年頃北部の人民離叛して、獨立のイスラエル國を建て、サマリヤを都とした。南都はエルサレムを都としてユダヤ國といふた。イスラエル國民は商業を主とし都市的生活をなした。之に反してユダヤ國民は尙ほ牧畜の貧しき生活を營んで居た。この二國民は相互に軋轢して一致協力をしなかつたために、東はメソポタミヤ地方の强國アッシリヤから侵略され、南は

ナイル河畔の强國埃及の侵略を蒙むるやうになつた。然るに北部イスラエル國民は柔弱に流れて國防に當る勇士なきに至り、紀元前七二二年アツシリヤ國王サルゴンのために滅ぼされ、國民の多數は奴隷としてエウフラテス以東の地方に移され、その地方の住民の中に雜つて仕舞つた。紀元前六〇六年新バビロニヤ國が起つてアツシリヤを滅ぼし、紀元前五八六年又ユダヤ國を滅ぼし、ユダヤ國民を捕虜として歸つた。然るにそれより四十餘年の後五三九年ペルシヤのキロス王がバビロニヤ國を滅ぼし、バビロンに捕虜となつて居た猶太人に故國に歸住することを許した。是に於て猶太人四萬二千餘人がパレスチナに歸住し、エルサレムの市を再興し、殿堂を再建し、ペルシヤ國の治下に生活して居つたが、アレクサンドル大王のペルシヤを遠征するに當り、猶太人は抵抗せず之に服從し、大王の死後は或は埃及のプトレミー家に屬し、或はシリヤのセリウコス家の治下に屬したが、シリヤ王アンチオコス・エピファネス（一七五ー一

六三年）に至りて猶太の宗教を亡ぼそうとしたから、猶太人は憤起して叛を謀り、多年抗爭した擧句紀元前一四一年に至つて遂にユダヤ國の獨立を見るに至つた。然るにその後紀元前六三年に至り、ローマのポンペイウスがシリヤを征した際、ユダヤ國にては王位について内訌を起して居たので、ポンペイウスは之に干渉して遂にエルサレムを占領し、ユダヤ國をローマの朝貢國とした。

これより猶太人はローマの權勢に服した。そしてその間にキリストが生れた。その後猶太人はローマの壓制に堪へずして叛を謀つたために、紀元七〇年チッスの爲めにエルサレムは陷れられ、市は毀たれた。この時猶太人最後の奮鬪をなし百萬人戰死し、九萬七千人捕虜となつた、その中七百人ばかりはローマ軍凱旋式の飾とせられ、他は悉く奴隷として賣られたといふことである。この後猶太人の中また再興を計つたものがあつたので、ローマ皇帝ハドリヤヌスは紀元一三五年之を征服し、パレスチナの土地から猶太人を追出し、エルサレム

の市の名を變へてエーリヤ・カピトリナといふ名に改め、シオンの山にはローマのジユピター神を祭ることゝし、その附近にはローマ人やギリシヤ人や、フエニキヤ人や、シリヤ人を移住せしめ、猶太人の歸住せんとするものは死を以て罰することゝした。

かく猶太民族は度々外國人の爲に侵略せられ、その度毎に捕虜となりて奴隸に賣られたり、又强制的に移住させられたりした上、最後にはその本國を追出されてしまつた。猶太人は其の後今日に至るまで政治上の獨立を恢復することを得ず、他國民の間に雜つて亡國民として賤視と虐待とを受けて來たのである。殊に中世の後半期以降は到るところで仇敵のやうに扱はれ、職業を拒まれ、重稅を課せられ、或は所拂ひに逢はされたり、良民と區別するために特殊の服裝をさせられたり、あらゆる憂き目を嘗めて來たのである。畢竟猶太民族は政治上には惠まれぬ國民であつた。それは偶然にもその隣邦に埃及、アッシ

リヤ、バビロニヤ、ペルシヤ、マケドニヤ、ローマ等といふ强國が次々に起つたが、之と對抗が出來なかつたために、征服せられ壓迫せられた歷史を繰返したのである。亡國民の悲哀といふことは實に猶太民族の過去二千年の歷史が見せ付けて居る。

（三）ローマ時代の猶太人

ローマ帝國は世界主義の政治を施し、何宗敎でも寬容したから、別段猶太人を迫害することはなかつた。既にユリウス・ケーザルの時、ローマ領内に散在して居た猶太人に信仰の自由を許し、エルサレムの祭司長を管長とし、エルサレムに順禮することを許した程であつた。されば猶太人は政治にも參與し、官吏ともなることが出來、帝國領内至るところに居住することを得て他民族と平和に暮した。然るに基督敎がローマに流行するに至つて猶太人は基督敎徒から

仇敵視され迫害さるゝことゝなつた。今少しく猶太教と基督教との關係を說いて見やう。

基督教の開祖イエス・キリストは猶太人である。基督教は猶太人の宗派の新派に外ならぬ。基督教の聖書は舊約と新約との二部より成るが、舊約の力は猶太民族の「古事記」である。基督教も猶太教も同一の創物主を信じ、同じくモーゼの戒律を守るものであるが、猶太人は己等だけが神の特別の恩寵を受け得ると信じ。自ら稱して神の選民だと自負して居る。

創世記によれば、神がアブラハムに與へ給へる契約に「わが契約を我と我および汝の後の世々の子孫との間に立て永久の契約となし、汝および汝の後の子孫の神となるべし。我汝と汝の後の子孫に此汝が寄寓る地乃ちカナンの全地を與へて永久の產業となさん、而して我彼等の神となるべし」といはれたとある。又出埃及記にも「されば汝等若し善く我が言を聽き我が契約を守らば汝等

は諸の民に愈りて我が寶となるべし。全地はわが所有地なればなり。汝等は我に對して祭の國となり、聖き民となるべし」とある。この猶太人の宗教思想は、バビロニヤに幽閉せられて亡國の悲哀を痛感したる頃に確定したので、神に信頼し、その冥助を仰ぐ念が盛んである。そして民族の政治的勢力衰ふるに及んで救世主の來現に關する豫言の實現が深刻に期待せられたのである。

猶太民族がアラビヤの曠野に遊牧した間は、神の住所として幕屋を作り到るところに携帶したが、カナンの地に定住するに及んでは神殿建築を起した。バビロニヤ幽囚以後は、神殿制度は偶像崇拜の弊に墮ち、國家を滅した所以であると覺り、人民をして何れの地に於ても毎週モーゼの律法を教へられ得るやうにシナゴーグといふ會堂組織を起した。猶太民族は今日までその舊慣を遵守し、猶太人の住居するところには必ずシナゴーグがあり、公共禮拜を行ふ。十人相會すれば公共禮拜を行ふこととの規定である。シナゴーグは禮拜堂と宗教學

校と公會堂とを兼ねたやうなものである。

イエス・キリストは紀元前四年ベトレヘムに生れた猶太人であつたが、自ら救世主と稱して傳道を始め大に尊信を得た。彼は屢々シナゴーグで說敎した。また使徒等が外國に傳道せる時にも、先づ猶太人の食堂に入るを常とした。この會堂組織は後の基督敎會の會堂組織の模範となつたものである。

さてキリストは猶太敎の改革派である。猶太敎の祭司等はキリストを忌みて、ローマの方伯に訴へ、キリストがユダヤ王たらんとすることを讒し死刑に處せしめた。後世基督敎徒が猶太人を不倶戴天の仇の如く考へるにこの敎祖を死刑に處したといふ怨恨が大に與つて居る。

基督敎は猶太敎から出た宗敎ではあるが、猶太人の選民思想を棄てゝ世界人類を平等視して如何なる民族にでも布敎し樣とした。けれども最初はローマ帝國に於ける皇帝崇拜の制度に反抗したために、その信仰は政府の忌避に觸れ、

禁壓せられたが、その教義が當時の人心に投じたために信仰するものが次第に多くなつた。遂に四世紀に至り、コンスタンチヌス大帝は基督教に歸依し基督教を國教とすることになつた。それまでは信仰の自由を許されて居た猶太人はこゝに壓迫を受けるやうになつた。但しそれは國家の宗教の統一といふ政策の上から來たものであつて、特に猶太民族であるがためでなかつたことは、同じ基督教徒でも、アリウス派の教徒が異端として國外に追放せられたことを見ても判る次第である。

(四) 猶太人の迫害

西ローマの版圖がゲルマニヤ諸國民のために侵略を蒙つた際、猶太人は却て自由を得た。アリウス派の基督教を信じた西ゴート族の如きはイスパニヤに侵入後その地方に住居した猶太人に同權を享有せしめたほどであつた。然るに西

ゴート國王が羅馬加特力教に改宗するに及んで猶太人の權利に制限を加へるやうになつた。そして西歐にローマ法王の勢力が漸く增大するにつれて、猶太人排斥の氣勢が強くなつた。殊に封建の時代になつては宗教の信仰が強く、殺伐の氣風が一般に行はれたから、十字軍の起つた際の如き、從軍の基督教徒が猶太人の部落を見ると、何の容謝もなく襲擊を加へ掠奪を行ひ殺戮を恣にした事もあつた。かくて十三世紀の頃は猶太人の迫害が高潮に達した。國によつては猶太人には特別の帽子を冠らせて普通民と區別したり、又は居住地を制限して普通民と雜居せしめぬやうにした。このやうにして出來た猶太人街をゲツトーといふた。一三四八、一三四九年の頃フランス、ドイツに黑死病が流行した時、猶太人が井戸に毒を投入した結果であるといふ流言が行はれ、猶太人が非常に迫害された。特にドイツでは猶太人が衞生の注意深きため、死者を出すことが少かつたことが、却てかゝる嫌疑を增す理由となつて、基督教徒から猶太

街は時々襲撃されたといふことである。當時猶太街には門扉が二重になつて居たといふことである。一重はキリスト教徒が夜間猶太人が出て來て毒を投げるとか、其の他子供を誘拐するとか、悪いことをするのを防ぐとて設けたもの、一重は猶太人が基督教徒が夜間襲撃暴行を加へる恐れがあるから之に備へるために設けたるものであつた。かやうに雙方が疑ひ合つて互に不安の生活を遣つたものである。猶太人はかく差別待遇を受け侮辱せられながらも、亡國民の悲しさには誰に頼ることも出來なかつた。まだ差別待遇だけは隱忍することも出來やうが、甚しきになると財産を國王に沒收された上に國外に追放されたこともある。又身體の自由を奪はれて奴隷に賣られたこともある。

東ローマの版圖では、ユスチニヤヌス帝の時（六世紀）に至つて、從來猶太人が享有した自由を奪ひ、基督教に改宗を強制した。帝はローマ法典を大成せしめた明君であつたが、領内に於ける猶太人が基督教徒の爲めに迫害せられて

も、法律によつて之を保護しやうとしなかつたのである。猶太人はマホメット教國に於ても同じく壓迫を受けた。元來アラビヤは多數の猶太人が住んで居たので、マホメット教の教祖マホメットは猶太教の教義を取り入れたところが多かつたのであるが、マホメット及びその繼承者は政教一致の國を建てたので、國内に異教徒の存在を許さぬ譯であつた。それで猶太教徒が改宗を肯んぜざるために、これに特別の服裝をなさしめたり、又特別に人頭稅を課し、地租を重くしたのである。イスパニヤ半島にマホメット教の勢力が行はれて居た當時猶太民族はまた人頭稅を課せられて居たのであるが、信仰だけは維持するを許されて居た。併し基督教の勢力が盛んになつてマホメット教徒をアフリカの方へ追ひ出した後、イスパニヤ國では丁度コロンブスのアメリカを發見した年即ち一四九二年に、猶太人追放令を出し、三十萬人以上の猶太人を國外に放逐したのである。この多數の慣れな亡國民はかく家を失ひ財產をも無くして、生命だ

けを頼みに北アフリカや、伊太利、土耳其の方面へ逃げ出したのである。この國外追放といふことは十五世紀に於てロシヤにも行はれ、伊太利でも十六世紀末までは諸地方で時々追放令を出した。歐羅巴の諸國から追出された猶太民族は一時逃れに甲の國から乙の國へ、乙の國から丙の國へと浮き草のたゞよふ如く、追放令のまだ出て居ない所や弛んだところを求めて移住した。諸國の君主大名の中には、この猶太人を保護して、保護税を徴收して自己の懷を肥さうとした者もあつた。ドイツ皇帝は早くも十字軍の頃から猶太人を保護して税を徴收して居たが、十四世紀の頃には税ばかり取つて、保護をしなくなり、おまけに猶太人の生命財産は皇帝の恩領として授けてある物であるから、何時でも皇帝に沒收する權があると思惟され、皇帝の代る度毎に、御朱印といふやうな保護狀が新たに下附され、之に對して御禮金を出さねばならぬといふ制度であつた。そして皇帝はこの保護權即ち保護税徴收權を諸侯や都市に知行として與へ

たり又は質入れしたりした。猶太人は丸で牛馬同様の扱ひであつたといひ得る。其の外猶太人は旅行の安全を保護して貰ふため、皇帝に金を出して旅行免狀を貰ふこともあつたが、後には安全保障なしに只生命税といふやうな税を徵收せられるやうになり、十八世紀末までこの制度が殘つて居つた。猶太人の生命財產の不安想像するに餘りある。

歐羅巴殊にドイツで迫害せられた猶太人は多く東方のポーランド國へと移住して、こゝで指物業や仕立業や製靴業その他小手工業に從事した。

歐羅巴に於て猶太民族が排斥せられたのは、宗敎的の理由ばかりではなかつた。その間に社會的經濟的の要素が含まれて居る。卽ち職業の關係である。猶太民族は元來は牧畜農耕を主とした生活を送つたもので、必ずしも商業國民として生れついたものではないが、國亡びて四散してからは、自然行商といふやうな仕事に從事するものが多かつたに違ひない。そして彼等の同族が到るとこ

ろに散在して居るといふことが、この商業的交通を敏活ならしむる便宜を與へたのみならず、時には今迄人の通はなかつた交通の路をも新たに開くやうな事もあつた。それがため、ローマ滅亡後農業國民として都市生活を知らなかつたゲルマニヤ民族からは猶太商人は排斥せらるゝよりも寧ろ歡迎せられ、自然農業に從事するものよりも、商業に從事するものが多くなつた次第であるが、後には基督教國でもマホメツト教國でも、宗教が異る故に國民としての權利を制限せられ、土地所有を禁ぜられるやうになつたから、猶太人は主として商業に從事するやうになり、次で金貸を初めた。當時基督教徒は金を貸して利子を取ることを教會で禁ぜられて居た。それは出埃及記に「汝若し汝と共に在る我民の貧しきものに金を貸す時は金貸の如くなすべからず、又之より利息を取るべからず」とあるからである。これは猶太民族の古い掟であつて基督教會でうけついで嚴守したのである。猶太教徒は勿論この掟を同族間には嚴守して居た

が、聖書の申命記に「他國の人よりは汝利息を取るも宜し、唯汝の兄弟よりは利息を取るべからず」とあり、他民族からは利子を取つても差支ないことになつて居るので、基督教徒に對して金貸しを初めたのである。金融といふことは商業の發達に對して非常に力のあるものである。中世の中頃から基督教徒が次第に都市商工業を盛にするに至つた裏面には猶太商人や金貸の力が與かつて居ることを否定することは出來まいと思ふ。

然るにこの勃興した都市では追々商業にも工業にも同業組合を組織することゝなつた。それも宗教熱の盛んな時代のことであるから、組合の行事には自然宗教的の色彩が加はるので、猶太人は同業仲間から排斥せらるゝに至るは已むを得ぬ次第であつた。そして同業組合の規約は都市政府の承認を得たもので、組合員以外には同業に從事することを許さぬので、猶太人は組合の組織されて職業には一切從事することが出來ぬやうになつた。それで猶太人は金貸の外、

職を求むる路がないやうになつた。そして基督教の精神が盛になればなるほど、猶太人の高利貸に對する反感が盛になる譯である。金を借るものゝ心理は借りる時には恩に着るが、返へす時には澁面を作るものが多い。況んや高利を借りる場合に於てをやである。基督教徒が猶太人を排斥するやうになつた所以もまたこの心理に在ることゝ思はれる。

彼の有名なるシエクスピーヤの「ヴェニスの商人」に描寫された猶太人の高利貸シャイロックの人物性格は、猶太人に對する基督教徒の憎惡心から作り出されたものと見るべきである。アントニオといふ基督教徒の富商が、常にシャイロックを罵りて犬のやうな奴だといふたり、唾をはきかけたり、足蹴にしたりしたけれども、シャイロックは一切の侮辱を隱忍して居た。然るにアントニオが其の友人の貧乏貴族に金を貸さうとしたが生憎持合せがなかつたので、日頃侮辱して居たシャイロックの許へ友人を伴れて借金に行つた。シャイロック

は初めは犬に貸す金がありましやうかなどゝ皮肉なイヤミをいふて居たが、ついに復讐をする機會があるかも知れぬといふ考を起し、今後親切にさへして下されば利息などは貰はぬでも貸しましやうといふて、冗談のやうにして、期日までに返金の出來ない場合に、アントニオの身體のどの部分でもシャイロックの好きな處を肉一斤切り得ることを約束させて、公證人の役場で借用證書を作らせた。アントニオは無論返金の見込みがあつたので、そんな約束をしたのであつたが、入金の豫定が狂うて期限が過ぎたため、冗談が事實となり、遂に肉一斤要求の訴訟がシャイロックから法廷に提出された。裁判官はしきりに寛大にせよ元金の幾倍でも望むだけを取るやうにせよといふが、シャイロックは「手前の決心は、先日申上げて置きました。是非とも證書の通りのものを受取ると神に誓を立てました、それをならぬとおつしやれば、お國には法律もなく自由もないこととなりませう。或は御不審でございませう何故に三千ダケット

の金を取らんで、何の役にも立たぬ人肉一ポンドを慾しがると、其の答は致しませんが。かりにそれは手前の奇癖だと申したら如何でございませう。見す〳〵損と知りながら。アントニオに對して斯ふいふ訴訟をしますのも、彼に宿怨がありまして虫がすかぬからでありますI「手前が要求する肉一ポンドは高い價で買い取りましたものでっ手前の所有物ですから。戴きたいと申すのです。それをならんとおへしやれば。お國には法律も無いも同然です。是非裁判を願ひます」（坪内博士譯）と主張して、肉を切り取る爲めに一生懸命に及物を研いで居る。いかにも慘忍な復仇心の强い因業な男の樣に描寫されて居る。併しアントニオが借りに行つた時の態度も亦傲慢不遜を極めたものであるといはねばならぬ。彼は「今後も侮辱を加へることがあるかも知れぬから敵として貸して呉れ」といふて居る。何と憎らしい挨拶でしやう。裁判官の判決も亦不公平の譏を免れないものである。借用證書に國家としては認めることの出來な

い、不道德な契約事項が含まれて居るから、無効のものとして訴訟を却下することをしないで、契約の合法なることを認めてその處置に困つた擧句、契約書を文字通りに解釋して「單に一斤の肉としてあるから切り取りの際血一滴たりとも流してはならぬ、髮一筋の重さの多少があつてはならぬ」と申し渡したのは明裁判のやうでも無理がある。更に「其方はヴェニスの市民の一人の生命を取らんと企てた廉を以て、ヴェニスの法律に依つて財產を沒收し、生命はヴェニス大公の御悲慈次第である」と判決し、そして大公は「我等が有する基督敎精神と、その方の精神との相違を、其方に知らさんがために、其方の命は其方が願ひ出ぬ先に宥して遣はす。其方の財產の半分はアントニオのものとなり、他の半分は政府のものとなる」と宣言したといふに至つては、如何に當時の基督敎徒が身勝手な裁判を猶太敎徒に對して行つたかを想像するに餘りあるのである。シェクスピヤはなほ金錢に執着心の强い猶太人根性を表はすために、最

初頑强に肉片を請求したシャイロックをして、裁判不利と見て急にそれならば肉はやめて金にして貰ひたいといひ出させて居る。

シエクスピヤのヴエニスの商人は一五九七年の作でその世界的名作として各國の文學に飜譯せられ、各國の劇場で上演せられたことは後の排猶太氣分を煽り立てる原因の一になつて居るであらう。

猶太人の金錢に執着心の强いことは事實である。十七世紀の終り頃ハンブルグの一猶太人の妻の日記に一にも金二にも金と金の事ばかり書いたものがある。當時の基督敎徒は金を愛せなかつた譯ではないが、猶太人の如く公然平氣で利得を喋々することを憚つたのであつた。又當時の商業道德としては、公衆に廣告する事さへ卑劣のことのやうに思はれ、物の値段を安くすることは同業者の迷惑になるから罪惡だと考へられ、利得を多く貪ることも亦勿論罪惡と考へられた。この時に當り猶太人は商業廣告を試み（十七世紀の中頃オランダの

猶太人の間に始まる）、安價に物品を賣つたり、又高利を貸したりした。それで愈々惡まるゝ種子を蒔いたのであるが、それは寧ろ猶太人の罪ではなくして、彼等に職業の途を塞いた基督教徒の負はなければならぬ責任である。

此の如くして猶太人に對する基督教徒の感情は、宗教的や職業的の反感から移つて人種的の反感となつたのである。宗教改革者ルーテルはイエス・キリストも猶太人だぞと警告した。當時一般に基督教徒は猶太人を賤民扱ひにして、道德も違ひ、人間も違ふものゝやうに考へて居たのであるが、猶太人自身は選民の觀念を維持して居た。

猶太民族はその宗教を持續するために、自ら同民族同士の集團を作つて住居する傾向がないではなかつたが、中世紀に於て各地の法律によりて一定の區劃を限りて居住を許されるやうになり、又基督教徒から賤視されるやうになつてからは、愈ゝ同族團の結束も固く、專ら舊慣を墨守して、その子弟の教育も全

然猶太式に施したので、益〻基督教徒とは風俗上に大なる區別を生することゝなつた。そして彼等は異教徒と結婚することを罪惡の如く考へ、何處までも選民の血液を純粹に保ちたいと期して居つた。その舊慣の固執する一例に次の樣な話がある。

ポーランドの猶太人の風俗は、娘は結婚する前に頭髮を剃るか又は短く切つて、結婚後には頭に羊毛か絹糸で作つた冠り物を附けて居る習慣である。處が或る娘がその房々した自慢の髮を切ることを惜んで、猶太の習慣に背き、その儘冠り物を着けて結婚をした。間もなく妊娠したが死產であつた。その後第二回の妊娠で生れた子は六日目に死んだ、シナゴーグのラビ（學者の稱、敎師の職をなす）は何か律法を犯した報ひであらうと疑ふて居たところ、祭日に夫婦が同伴で參詣したとき、妻は失神して倒れた。人々之を扶け起し介抱したが、偶然にも冠り物が落ちて頭髮の延びて居ることが發見され、大騷ぎとなりて、

夫婦とも破門となつた。その後また夫婦の間に子が生れた。ラビは會衆に向て、母が頭髮を延ばして居る罪によつて父も破門せられて居る。生れた子には罪は無い。けれども、兩親と一處に在る間はその運命を共にせねばならぬといふた。之に暗示を受けた數人の男が夜覆面してその家を襲ひ、母の髮を切り取つたといふことである。誠に亂暴な話である。それがためかその女は數日の後死亡し、子供も母の後を逐ふて此の世を去つた。斯樣に猶太人の律法に觸れた者の墓碑には、この地方の習慣として誌銘が無いのが例である。それは最後の審判の日が來た時天使が墓地へ來て一々靈魂を呼びさまし、善行の人の靈は天國へ、惡行の人の靈は地獄へ送るのであるが、名前の墓碑に書いて無いのは名を呼ばず通り過ぎるといふ思想の下に、罪人を憫れむ考から無銘にしたのであるといふことである。

斯樣に猶太人は宗教上の戒律を嚴守する習慣があるが、殊にその經典トラー

やタルムードには衞生上の教訓がある。例へば食事についても鳥獸魚肉等について不潔として禁せられた種類があり、肉を料理するには十分に血液を搾つて死毒の殘らぬやうにするとか、酒精類を遠ざけ、少量の葡萄酒を飮むとか、食事の前後には必ず手を洗ふとか、又は宗教的行事として水浴をする風もある。かくて淸潔、質素、克己、禁慾が猶太人の風俗になつて居るから、猶太人の幼兒の死亡率は基督教徒に比して少いことが統計によつて示され、又一般に長壽を保ち健康であることも認められて居る。

猶太人の道德は寧ろ基督教徒よりも高いものがあるやうに見える。彼等は到るところ迫害を受けたから、相互扶助、慈善、博愛、協力、勤勉、忍耐等の諸德が養成された。壓迫された結果、卑屈になり、シャイロックに表はれたやうな金錢のためにはいかなる侮辱をも隱忍するといふやうな性質が現はれないこともないが、また壓迫や危險に對して意志を鍛練した結果、堅忍不拔とか剛毅

とか沈着とか、剛情とかいふ性質が猶太民族の血液の中に遺傳して居るところもある。今その一例を擧げて見やう。

十七世紀の大哲學者スピノザは、イスパニヤから追ひ出されてオランダに移住した猶太人の家に生れた。幼少から學才があつたので、其の父は商業に從事せしめず、ラビにしやうとて學問をさせたところ、非常な英才で聖書の解釋についてラビ等の說に服せぬやうになつたので、彼等はシナゴーグに出で助手をして呉れなど〻利を以て誘惑したけれども、斷然拒絕し、遂にシナゴーグを脫退し、眼鏡の玉磨きの職を覺えて生計の道を立てやうとした。ラビ等は彼を呼び出し嚴かな儀式を擧げて破門し、彼の父の財產相續權をも奪つた。然しながら一向平氣で、友人から財產をやらうといふのも斷はり、フランス王ルイ十四世から巨額の年金を與へようとの申出をも辭し、又ドイツのハイデルベルヒ大學の招聘をも拒絕し、眼鏡を磨きながら一生思索に耽つて居たといふことであ

る。

基督教徒は猶太商人を不正直だとか詐僞者であると罵詈する。併し正直者もある。英國の大富豪ロスチャイルド家の先祖マイエルといふはドイツのフランクフルト市の猶太街に住んで居たが、一七九三年フランスの軍隊がドイツに侵入した時、隣邦ヘッセカッセル侯は國を逃げ出したが、その時財寶をマイエルに托し、金はどうしてもよいが、寶石だけは隱くして呉れよと賴んだ。マイエルはフランス軍のために自分の財寶は掠奪されたけれども、依賴された財寶は首尾よく隱くし果せた。その後カッセル侯歸つて來てマイエルを尋ねたとき、マイエルは寶石を返濟した上、尙ほ預かつた現金に利子を附けて返へしたといふことである。その信義に厚きことと彼の子孫の繁榮した所以であらうと思はれる。彼に五人の子があつた。彼は臨終に五子を戒めて、一生忠實なる猶太敎徒たるべきこと、常に共同して事業に當ること、出來るだけ金を儲けること、但

し決して之を分割せぬこと、母の存命中は何事によらず重大なることは母に相談すべきことを宣誓させたといふことである。母は決して父の最後の家を去らず、子孫の幸福は其の家に彼女が留まつて居るからだと信じて居たといふことである。毛利元就の三子を戒めた逸話にも似たところがあり、誠にゆかしい話ではありませぬか。

猶太人の家庭では昔の族長政治時代の名殘で、父母の子女に對する權利が强く、子女の結婚なども子女に相談せずして極めることがある。神の命令が絕對で問ひ返へしの出來ないと同樣、親のいひ付けも絕對に服從すべきものとするのが、猶太民族の道德觀念であるやうである。宗教改革者ルーテルの良妻賢母主義も猶太の家庭に範をとつたといはれる。家庭の純潔といふ點に於ては猶太人の長所であるといはれて居る、猶太民族に排斥すべき特質のあるものと思ふは間違ひである。

（五）猶太人の解放

宗教改革者ルーテルはイエス・キリストも猶太人であると警告して、猶太人迫害のいはれなきことを説いたけれども、當時何人も之に耳を藉すものはなかつた。けれどもこの頃播かれた自由思想の種子がロックの政治論に芽を出し、アメリカ合衆國の獨立、フランス革命に花を咲かすやうになつた。猶太人の解放はまた實にこの時に起つたのである。而して之に先つて最も猶太人の地位の向上に努めた思想家は猶太人の中に生れたモセス・メンデルスゾーンその人であつた。

モセス・メンデルスゾーンはドイツのデッサウ市の人、一七二七年に生れ十三才の時その師なるラビに伴はれてベルリンに遊學した。幾許もなくその父から學資の仕送りが絶えたけれども、彼は饑を忍んで苦學し、猶太教の經典タルム

ードの研究の外にドイツ語、ラテン語、英語、佛語、數學を學び又大哲學者の思想をも窺ひ初めた。その學問の進むに從ひ、スピノザ同様その師達から嫌はれ出した。廿一歳の時ベルリンの絹織物を業とする一富商の家庭教師に傭はれ、その保護を受け、遂には事業の仲間にして貰ひ、又文豪レッシングと交を結んだ。レッシングは彼の文才を認め、彼の知らぬ間に骨折りてその創作を世に發表した。それより彼は文名を賣り出し、多くの著述を出版した。四十二歳の時出版した著述はフェドーと題する書である。プラトーの對話から譯出し敷衍したものであるが、彼が哲學思想によつて靈魂の不滅を論じたところ、その造詣の深さを窺ふに足り、高評嘖々幾度か版を重ね諸國語に飜譯された。彼は常に猶太民族の偏狹なる選民思想を排することに努めた。彼の著書「エルサレム」についてイマヌエル・カントが次のやうに述べて居る。

「私は君のエルサレムを讀んでどんなに驚歎したゞろう。この書は君の屬す

る民族のみならず、他の諸民族にも大に影響を與へるやうな一の大きな併し徐々に來らんとする改革の宣言だと思ふ。君は從來世人が思ひもつかなかつたやうな、又如何なる宗教にも見ることの出來ないやうな自由と寛容とを、君の宗教に結び付けやうとして居る。君は凡て宗教といふものは無制限に自由な良心を認めることを必要とする所以を力說された。從て吾等も亦我々の教會にてその事を考へねばならぬことゝなつた。基督教徒は自分等の遵奉する信條の中にこの精神を壓迫するものがありはしないかを反省せねばならぬ、而して又宗教上重要なる諸點に關して諸宗教を統一することを考へねばならぬ」

メンデルスゾーンは斯くカントを感歎せしめたほどの自由思想を抱いて居たため、强情なる猶太教會の連中から排斥されたことは勿論のことであつたが、彼は死ぬまで猶太教を改宗せなかつた。併し彼は嘗て其の友の一人なる熱心過

ぎるほどの基督敎信者から非常に困まらされた話がある。その友とはスウヰス國の僧侶で名をラバーテルといふ人であつた。ラバーテルは一冊の基督敎に關するフランス書を飜譯して、之をメンデルスゾーンに捧げ、而して彼に對してこの書の荒唐なることを指摘するか、然らずんば猶太敎の信仰を棄てよと挑戰した。メンデルスゾーンは元より猶太敎を棄てる考は無いし、さればとて論爭したり、他人を無理に改宗させやうといふやうな意志は、毛頭持ち合せない人であるので、この挑戰に對し甚だ迷惑した結果、ラバーテルに對する公開狀を發表した。その文は彼の美しき心情の發露であつて、心ある讀者をして歎賞措く能はざらしむるものがあつた。その文中に

私の友人中には私と信仰を同じくしないで而も立派な人が澤山あることを欣幸とする。私共は信仰の問題については、全く意見を異にするものであるにも拘はらず、相互に親密な交りを結んで居る。私は彼等と交際する事によつ

て自分の缺點を改めることが出來、又慰安をも亨け得ることを喜んで居る。私は決して內心で「あゝこの立派な人の靈魂は實に哀れだ」などゝ考へたことは無い。自分の敎會以外では神の救ひが無いなどゝ信ずる人は屢々そうした考を胸に浮べることがあるに違ひないが、

といふ文句があつたので、率直なるラバーテルは慚愧の餘り、メンデルスゾーンに宛てた書狀を公開して、自分の無禮と思慮の足らなかつたことを詫びたといふことである、誠に奥ゆかしき逸話である。斯樣な次第でモーセス・メンデルスゾーンの學問が大に猶太人の地位の向上に貢獻したことは大であるが、又一面には當時の思想界が一般に大なる變化を來たしたことが、猶太人解放に與つて力がある。畢竟自然科學の發達によりて宗敎心が凡ての宗敎信者に薄らいで來たことが、猶太敎徒たるの故を以て猶太人を壓迫するといふ考を薄くした原因であると思はれる。

信仰の自由の思想と同時に政治上自由の思想も盛んになつて、出身を論せず階級を打破するといふ精神が强くなつたために、猶太人たるが故に政治上の同權を拒否することの理に合はぬことを感ずるやうになつた。

猶太人に政治上同權を與へたのはアメリカ合衆國が先驅であつて、一七八三年の爭であつたが、之についではフランスである。フランスでは一七九〇年フランス國内居住の猶太人から國會に對して他の市民と同權を賦與せられんことを請願した。この請願に對しては自由主義の議員でさへ、從來の偏見に促はれて反對したものも多かつたが、ミラボーの如き人々の正議が勝を占めて遂に一七九一年同權を許さるゝことゝなつた。之より先きポルトガルにては一七九一年に同權を許され、オランダにては一七九六年に、ドイツ國内ヘッセンにては一八〇八年にプロシャでは一八一二年にドイツ全體としては一八四八年の國會にて、次に一八六九年北ドイツ聯邦の法律にて解放せられた。英國にては一八

四七年猶太人ロスチャイルド家の一人が國會議員に當選したが議員としての宣誓を猶太教徒として拒んだために議員資格を失つた。一八五八年には宣誓の形式が改められ猶太教徒でも甘んじてなし得らるゝやうになり、完全なる同權を與へらるゝことゝなつた。オーストリヤでは一八六七年。イタリヤでは一八七〇年に同權が賦與せられた。

猶太人の解放により猶太人は基督教徒の間に雜り、之と同化するやうになつたことは事實である。先づ猶太人の基督教に改宗するものが多くなつた。これは前述したモセス・メンデルスゾーンの如き思想家の影響もあり、又自然科學の影響が猶太教徒の間にも及んだ結果と見ることが出來る、モセス・メンデルスゾーンの子で銀行家であつたアブラハム・メンデルスゾーンは自分の子を基督教徒として教育した。その長女に與へた書狀に曰ふ

正義は神である。宗教は歴史的であるから、その形は變るべきものである。

自分は猶太人として育てられたけれども、今は基督敎徒が多いから汝を基督敎として敎育した云々

と基督敎徒の多い事は昔と變りはないけれども、猶太人の信仰が薄らいだために、改宗を利益とするに至つたのである。ヤコブ・フローメルの報告によれば一八二〇年の頃ベルリンの猶太人の約半數が基督敎に改宗したとあるが、これは稍誇張に過ぐる嫌があるやうである。併し兎も角十九世紀に至りて改宗者が增加したことは事實である。ゾムバルトの硏究によれば、ベルリン市の猶太人がキリスト敎に改宗したるは、一八七三年より一九〇六年まで三十三年間に千八百六十九人を算へ、ウイーンにては年々五六百人の改宗者あり、一八六八年より一九〇三年まで三十五年間に九千〇八十五人を出したといふことである。

他の國々に於ける猶太人の改宗も亦多かつたことであらうと思はれる。猶太民族でかく宗敎を改めるほどの者は、無論言語風俗はそれ〲その住する國土

の非猶太人社會のそれと同化することになつた。たとひ猶太教を墨守して居るものでも、解放以後はその居住する國の市民として同權を許され、自由に住居を移し、自由に職業を撰擇することが出來るやうになつたので、非猶太人と伍して之に同化し、各種の方面に於て劇しき生存競爭を試むるやうになつた。而して千幾百年の永い間壓迫と屈辱とを被つて來た。猶太民族が、俄かに擡頭して各種の方面に於て基督教を凌がんとするやうな勢を示したことは、再び猶太民族に對する基督教徒の反感を招く原因となつた。

（六）　近世國家發達に對する猶太人の貢獻

猶太民族は十八世紀末まで、到るところで虐待せられたが、西洋に於ける近世國家の發達には猶太民族の貢獻は非常に大なるものがあつた。これは歴史を讀むものゝ見逃がすことの出來ぬ事實である。猶太民族が近世國家發達に貢獻

したのは、政治家として直接樞機に參したためではなかつた。將軍として特に武功を建てたといふでもなかつた。その貢獻は寧ろ間接的であつた。

近世國家の發達について重要なるものは兵力であつた。富國强兵は國家發達の最主要なる條件であつた。王侯が兵力を蓄へ兵を動かすことの出來たのは、實に財政上に於て猶太人の力に待つところが多かつたためである。即ち各國の王家にては猶太民族を庇護し、之を御用商人として軍需品を供給させたり、又は猶太人から軍用金を借りたり、又は猶太人を任用して財政を處理せしめたことが多かつたのである。オランダに於てはウイリヤム三世時代に於てもモセス・マカドといふ猶太人があり又フアンショーネンベルヒといふ家があり、スアッソといふ猶太人の如きは一六八八年にウイリヤムに二百萬グルデンの金を貸した。此はイギリスへ侵入して名譽革命を促がし、英國の王位に即いた時の用金であつたのであらうと思はれる。當時のオランダに於ける猶太人の金力はオラ

ンダ以外に勢を伸ばした。ピント、デルモンテス、ブエノ・デ・メスクイタ、フランシス・メルス等のやうな連中は當時北歐の諸國の王家に御用金を調達した有名な猶太人であつた。實に十七八世紀のオランダは歐洲の金融の中心であつたのである。

英國に於ても十七八世紀に於ける猶太人の勢力は大なるものであつた。長期議會は金に缺乏したので富裕の猶太人を英國に引き寄せた。そこでクロンウエルによつて猶太人居住の許可を與へられない前に、既にイスパニヤ、ポルトガルの二國から移つて來て居た猶太人がオランダのアムステルダムから、ロンドンに移住するものが多かつた。その中にはクロンウエルの共和國の金主といはれたアントニオ・フエルナンデス・カルヴアジャルも居つた。又其の後チャールス二世の皇后がポルトガル王家から入輿に際して英國へついて來た猶太の金持が多かつたが中にも、ダ・シルヴア兄弟は皇后の持參金の管理の任に當つ

た。ウイリヤム三世がオランダから英國に入りて王位に即いた時、オランダからサー・ソロモン・メヂナが隨行して財政を援助し、猶太人にして初めて貴族に列せられたが、同時にスアッソ家も英國へ來て王室御用金方となつた。アン女王の代に御用金方を勤めたものはメナッセー・ローペスであつた。ワルポール執政の時代英國政府の金箱となつたはサムブソン・ギデォンといふ猶太人であつて、一七四五年政府の財政危機に瀕した時、百七十萬磅の公債を調達した。同人の死後はフランシス及びジョセフ・サルヴアドル商會がその後を承け、十九世紀の始に至りてはロスチャイルド家が之に代つて英國の金權を握ることゝなつた。

フランスにてはルイ十四世の頃にヤコブ・ウォルムスといふ猶太人が外征の軍需品用達を勤めた。同王からルイ十五世の治世に亘つて、サミユエル・ベルナールといふ猶太人が財政の鍵を握つて居つた。彼はフランス王家のために、

イスパニヤ相續戰爭の資金を用立て、又ポーランド王位候補の競爭にも資金を調達したのであつた。ルイ十五世十六世の時代にはセルフ・ビーヤといふ猶太人が御用達商人であり、又アブラハム・グラヂスといふ猶太人がカナダのケベックに倉庫を立てゝ北アメリカ植民地で英軍と戰つたフランス軍に軍需品を供給した。次で革命時代總裁政治、ナポレオン時代に於ても亦猶太人は軍需品の用達として大に活動した。

猶太人排斥の盛なる時代に於て、猶太人に國内居住を許したのは、王家に於て猶太人の財力に依頼するところが多かつたためである。そしてそれ等の猶太人は表面は基督教に改宗したるやうに假面を被つて追窮を免れて居たものである。ドイツ國内でも亦法律上は矢張猶太人の居住を禁じたが、諸侯は御出入猶太人といふ名義で二三の猶太人に特權を與へて庇護を加へた。これはオーストリヤの皇室が最初で御出入猶太人に任用せられた猶太人は商業の自由を與へら

れ、其の他同族が受くる制限を免除された。かくて十七世紀十八世紀に於ては、ドイツ諸侯の中御出入商人を置きて其の財力の援助を受けなかつたものは無かつた。十七世紀には皇帝フェルヂナンドから貴族に列せられた、フォン・トロイエンブルグ家あり、レオポルド一世の朝にはオッペンハイメル、ウエルトハイメル、マイエル・ヘルシエル、シユレシンゲル、ジンツハイム等の猶太人の家族がウイーンに居住を許されて軍需品の御用達をつとめ、又御用金をも調達した。マリヤ・テレサの時代には此の外にアルンスタイネル、エルサルス等の諸氏がある。ウイーンの朝廷の百年以上に亘つて只猶太人のみから金を借りて居つた。されば猶太人の經濟上の勢力の强大であつたことを想像することが出來る。プロシヤで御出入猶太人となつたものはヨハヒム二世時代にリッポルド家あり、フレデリック一世の時にはコムペルツ及びヨースト・リーブマンといふがあつた。フレデリック大王の時にはエフライム、モセズ・イザーク、

ダニエル・イチッヒといふがあつた。

フレデリック大王は猶太民族を壓迫することは國を富ます所以でないと信じ、一七五〇年には猶太人に對する諸種の制限を撤廢した。そして猶太人を二種の階級に分け一種には世襲的居住を許し、一種には一代限り許可した。世襲的の居住權は實際商業にたづさはつて居るもの又はシナゴーグに於て或る職務を有するものに與へられて居たが、その居住權は只その家族中一子に相傳さるゝのみで、次子以下には許されなかつた。それは猶太人の人口增加を制限する爲であつた。一身だけの居住權は、たとひ商業に從事せずともその生活を支へるだけの資力を有するものに限りて與へられ、その子孫にその權を相續することを許されなかつた。世襲居住權を有するものゝ次子以下が居住權は七萬ターレルの金にて買ふことが出來たといふことである。猶ほ其外フレデリック大王は猶太人の結婚について嚴重なる規定を設け、貧しき者には結婚を許さなかつ

た。其の他ドイツの小諸侯は、近世になつて漸次驕奢の風が進むにつれて、宮廷の設備其の他食料品等の贅澤を競爭するやうになつたが、交通の不便なる際であつたから商業の中心地に御用商人を指定して置いて、例へばメクレンブルグ公はハンブルグに、ウュルツブルグ僧正はフランクフルトに置いたやうにして、皇妃の衣類調度裝飾品や、宮中官吏に給與せらるゝ朝服の材料や、大膳職用の食料品等を用達せしめ、尙ほ金融の相談にも應ぜしめた、ハンブルグや、フランクフルトのやうな猶太人の多く居る市には、澤山にこの種の諸侯の御用商人が居たのであつた。

アメリカ合衆國の獨立及び南北戰爭の際軍用金を調達し、軍需品の供給に力を致したものは亦猶太人が多かつたといふことである。就中獨立の資金を融通した猶太人はロバート・モーリスであつた。

十九世紀以前に於ては、國家が政治上必要なる費用を辨ずる爲めに、公債を

起さんとする時には、現今の如く多數の人の資金を集めるといふやうな公債制度を採らずして、少數の人より借りるが例であつた。これが金貸を職業とした猶太人をして國家の發達に欠くべからざるものとならせた所以であつた。

猶太人は近世國家の發達に大關係ある植民地開發に大貢獻をなして居る。かのアメリカを發見したコロンブスは猶太人であつた。そしてその同行者の中にも多數の猶太人が居たといふことであるが、其の遠征費は亦調べて見ると猶太人の手から出て居る。卽ち第一回の航海費はルイス・サンタンゲルと王室顧問官の金を借りて居る。アラゴン王の大藏大臣ガブリエル・サニヘーグといふ猶太人もその保護者であつた。第二回の航海も猶太人の金で出來た。併しこの場合はアラゴン王フェルヂナンドが猶太人追放令を出し、國庫に沒收したところの猶太人の金を以てしたのであつた。新陸地發見以後植民地に向ひしものに、猶太人の多かつたことは疑ふべからざる事實であつた。それは歐洲に於て迫害

せられた結果として、新たに發見せられた土地に生活の自由を求めんとしたことは無理からぬことである。印度、アフリカ、オーストラリヤなどへ赴いたものにも多く猶太人があつた。オランダの東インド會社の總裁にコーンといふ人があつたが、その名から判斷すれば猶太人である。英國の印度開拓については猶太人の名は知られて居ないが、南阿開發については明かにすることが出來る。一八二〇年三〇年の頃ベンジャミン・ノルデン、シメオン・マルクス等が南阿に移住し、ケープ植民地の內地產業を起し、モーセンタールの一家ユリウス、アドルフ、ジェームス等が羊毛及び皮革商となり、アンゴラ山羊毛織業を興し、アーロン及びダニエル・デ・パスが、捕鯨業を獨占し、ジョーエル・マイエルスの養駝鳥業を起したことなど、何れも植民地の發展に大なる貢献をなして居る。現今トランスヴアールには約三萬の猶太人が住んで居る。南阿全體に在住する猶太人の半數が此地に住んで居るわけである。濠洲の開拓にもモンテ

フイオレといふ豪商の力が與つて居るといふことである。英國が今日世界の植民國として一等の地位を占むるものは、その海運業の發達したことに由るのであるが、その植民地通航の業は大部分は猶太人の手によつて行はれたといふことである。

(七) 近世文化發達こ猶太人

近世文化の發達について最も著しきものは資本主義經濟組織である。これは猶太人の拜金思想からはぐくまれたことが多く、猶太人の商才によつて創造せられた制度によりて助長せられたものが多い。

中世に於ては職業組合が組織されて、組合員外のものに同業を營むことを許さなかつたが、猶更猶太人には一切の組合に入ることも許されなかつたので、猶太人は已むを得ず雜貨の行商をやつた。旅宿や、戸每を廻はりあるいて

賣つた。又雜貨店をも開いた。其の商品は外國より輸入したものもあつたが、又基督教徒に金を貸して質流れとなつたものもあり、又盜品もあつた。基督教徒は猶太人の商品は皆盜品ばかりだと惡口して居つた。猶太人は負債のため叩き賣りしたものを買ひ、又身代限りの處分に逢つたものゝ賣物や、組合の規則外れの製品として沒收された品物などを買ひ込み、商品の蓄積貯藏をやつた。かくして商品買占めの味を覺え、薄利多賣主義で利を得た。其の上猶太人は基督教徒よりも生活上の慾望が少い。それで猶太人の商賣は初めは損しても得意を多くつけることを第一として工夫した。かやうにして發達した猶太人の雜貨店は今日我が東京に於ける三越、白木屋、松坂屋其他大都市に於ける百貨店に見る如き大資本を擁するデパートメント・ストアの起源をなした。現今大百貨店の營業は米國に於て最も發達して居るが、その大部分は猶太人の所有であるといふことである。ベルリンにもウエルトハイム百貨店の如き大規模のものが

ある。亦猶太人の經營である。

カフエーといふものも近代我が國の田舍にまで流行しだした。これも猶太人の創めたもの、一六五〇年英國オックスフォードにてヤコブスといふものが開業したのが、世界に於けるカフエーの嚆矢である。レストラントの改良も亦猶太人の力であるといはれて居る。

猶太人の金儲けに機敏なことは天禀となつたかの感がある。彼等は金貸によりて利子を得、更にその資金を運轉して益〻大なる利益を得る道を講じた。猶太人は何處の國に住んで居ても國藉を持つて居ない故に政治上の色彩がない。政府がどうならうと國家がどうならうと構ふことはない、只己の利を求めさへすればよいといふ考のあつたことは無理もない次第である。されば國際紛爭は彼等の最も歡迎したところで、彼等は之を利用することに機敏であつた。彼等が軍需品の調達や、軍用金の調達に當つたばかりでなく、戰時に買ひ占めを行

つたり、又は戰時禁制品のやうなものを賣買して暴利を占めたことは多かつたのである。前に述べた正直男マイエル・アンセルム・ロートシルドの第三子ナタンといふ者がナポレオン一世と英國との戰爭當時ロンドンに居住して居つて、食料及び服地類の買ひ占めを行ひ又金貨の吸收をやつた。英國政府はロートシルド（英語にてはロスチャイルドと發音）から借金をして戰爭をしたが、返金するに當つては彼より金貨を買ひ入れ借金を返した。それで國家は借金に對する利子の外に金貨賣買に對する利益といふ二重の所得を、ロスチャイルドのために占められたことになつたが、それでも一八四〇年には功によつて貴族に列せられて居る。こういふ商業の遣り口は近世資本主義の特色となり猶太人以外の商人間にも流行し、從つて反資本主義の社會主義運動を惹起するに至つた。

近世資本主義は實は猶太主義なのである。

猶太人は兩替、銀行業、手形裏書、株式組織、株式取引所等近世資本主義、

經濟の發達を促進する制度の發達に貢献するところ多かつたといはれる。

猶太人の財力と企業的精神とは産業革命以前に於て既にその居住地をして經濟の中心地たらしめたかの感がある。新陸地發見當時さしも隆盛であつた、イスパニヤ、ポルトガル二國が、その繁榮はホンの一時的で、幾許もなく二等國の列に下つて仕舞つたのは、猶太人追放の結果であるといはれ、若しイスパニヤの猶太人追放が今百年早かつたならば、コロンブスの米大陸發見も出來なかつたであらうといはれて居る。そしてイスパニヤ半島から逐はれた猶太人がオランダに移住したことは十七八世紀に於てオランダが經濟的中心となり、アムステルダムやヘーグに在住した猶太人が贅澤な生活をした樣子は、今日も尙ほその住宅建築を見て窺ひ知ることが出來る。

産業革命によりて起つた大資本主義の現代工業は漸次商業化しつゝある形勢である。大工業會社は啻に大量生産を以て滿足して居ないで、原料を安價に仕

入れることや、生産品を賣り捌くことについて大に商略を振ふて居る。そして漸次副次的事業を計畫しつゝある。たとへば電力會社が電氣鐵道を經營するとか、其の他電力を使用する工業を兼ねて經營するといふ方針を採つて來るやうになつた。そして分工場であるとか分店のやうなものを各地に設置し、出來るだけ手を擴げて、出來るだけ利益を獨占せんとつとむるやうになつた。そういふ場合の計營は猶太人の資本ばかりではなく、商略、商才を要するものが多い。ゾムバルト教授のいふところによればドイツ工業會社の社長とか支配人とかいふ重役の中猶太人の名を多數に見出すことが出來るといふことである。此の如くにして猶太人は現代の大資本經濟に於て大勢力を占めるに至つたのである。

次に猶太人は解放後は官吏ともなり。軍人ともなるものが多かつたが、傳統的偏見のために災せられて、十分にこの方面には驥足を伸ばすことが出來なかつた。政治家として卓越した者には僅かに英國のディスレーリの如きがある。

彼は三たび大藏大臣となり、二たび首相となり、英國の帝國主義を樹立した功がある。かの埃及政府の窮乏に乘じてスエス運河株劵を機敏に買收し、フランス政府の鼻を明かせた如きは、その猶太人的商略の鋒鋩があらはれたものでなからうか。

猶太人の學藝の上に傑出したものは指を屈するに暇なき程である。醫學の上にては、猶太人が迫害を受けて居た時に於ても、尙ほ王侯やローマ法王の侍醫として任用せられて居たものがあつた。その技倆に於て當時拔群の名譽があつた結果であることはいふまでもあるまい。近代にては裁判醫學の大學であるイタリヤのセザール・ロムブロゾーの如き人がある。物理學には相對性原理の發明を以て知られたスウイス人アインスタインの如き、化學の大家としてT、N、Tといふ爆發藥發明をなし、世界大戰の際に英國海軍實驗所長であつたワイズマンの如きがある。探險地理家としては、北極を探險したノルウエー人ナンセ

ンの如き、中央アジヤを探險したスウェーデンのスウェン・ペッヂンの如きがある。その他國際通信事業を經營したバウル・ユリウス・フォン・ロイテルの如き、哲學にてはフランスのベルグソンの如き、又經濟學にてはカール・マルクスの如き、音樂家ではフエリックス・メンデルスゾーンやウイリヤム・リチャード・ワグネルの如き皆世界的に名を知られて居る。又國際語としてエスペラントを發明したポーランドのザメンホーフの如きも猶太人である。

かく列擧し來れば猶太人の近世文明に貢献したところは實に莫大であるといはねばならぬ。

（八）反セム主義

十九世紀初頭の思想界は自由主義が盛んであつて、何事も傳統を排斥し、因習を打破するの勢であつたから、猶太人の差別待遇は無くなり、そして、經濟

的に自由競爭が許された。新に束縛から解放された猶太人は永年伸さうとして伸ばすを得なかつた手腕を、誰に憚るところもなく伸すこととなつた。是に於て中小の商工階級は次第に猶太人の大資本に壓倒せられて、生活の道を失ふやうな悲境に陷つて來た。こゝに大資本家としての猶太人に對する反感の起るは避けられないことであつた。

この時に當つて反猶太人運動の勢を促進したものは、同じく十九世紀の初頭に頭を擡げて來た民族主義の思想であつた。民族主義の思想はナポレオン一世の歐洲の國境攪亂によつて誘發せられたものであつて、ウイーン會議に於ける國境整理の原則として採用されなかつたために、或は白耳義の獨立となり、オーストリヤ、ホンガリヤの分離運動や、バルカン半島諸國の獨立運動となつて、遂には二十世紀に入りて世界大戰亂の原因ともなつた。猶太人が解放後經濟上のみならず政治上にも學術上にも擡頭して來たことは出る杭の譬に洩れな

いのであるが、其の上この民族主義思想が手傳つて、一時消えかけた人種的反感を再燃せしめた。

反セム主義運動は、ドイツに起り、オーストリヤ、ロシヤ、ルーマニヤ、フランス、イギリスに擴がり、更にアメリカまで侵入した。ドイツに起つたのは、帝國の成立した當座、ドイツ民族的精神の頂點に達した際であつた。フランスからの償金が思ひがけなく早く支拂はれ、諸種の工業が勃興した。その際猶太系の資本家が投機的に諸種の事業を計畫して利を收めた中には、詐僞も行はれ、議員との結托もあつた。之より先きマールといふ人が一八六二年に「猶太主義のドイツ主義征服」といふ書を著はし、猶太人攻擊をしたことがあつたが、一八七五年に之を再版して人氣に投じやうとした。次で一八七六年にグラガウが「ベルリンに於ける株式取引所及び會社經營の詐僞」といふ書を著はして猶太資本家を攻擊し、反猶太思想を煽ることゝなつた。この頃マルクス派の

社會主義が漸くドイツに盛んになり、勞働階級の資本家に對する反感を煽動しつゝあつたが、この社會民主黨の勢力擴張を防止せんがために、宗教の力を藉りやうといふ運動が起つた。これは早く英國に起つた基督教社會主義の流を汲むもので、一種の勞働運動ではあるが、ドイツでは一八七八年にベルリンのステッケルといふ宮內牧師が首唱して組織した基督教社會主義勞働黨といふ團體で、反猶太主義を標榜した勞働運動である。之について猶太人排斥を標榜する小政黨が續出し、分合が屢〻行はれたが、要するに基督教徒以外を立法府に選出しないこと、猶太人を官衙長に任用しないこと、長官以下の官吏といへども猶太人採用の比率を限定すること、高等程度學校への入學比率を限定すること等を綱領としたり、又は猶太人に與へた同權を撤廢し、外國人扱に改め、なほ猶太人の外國より移住することを禁止することを目的としたり、又はドイツ在住猶太人の人口統計を間斷なく調査する機關を設けたいと希望したりしたので

ある。
ドイツの反セム運動は都市にも農村にも起つた。或は示威運動も行はれ、機關新聞の發行せられるのも多數あつた。猶太人もまた新聞事業に從事するものがあつて、對抗し、時には猶太人と基督教徒の間に決鬪も行はれ、基督教徒の暴行もあつた。皇太子フレデリックは反セム運動の正義に反することを警告されたこともあつたほどであるが、帝國議會には反セム黨として議席を占めたものが、一八八七年に初めて一人現はれ、改選每に增加して一九〇七年には二十七人となつた。そして一八九二年以來保守黨も反セム黨に味方するに至つた。
但しその政綱中には反セム主義を掲ぐるに至らなかつたのは、猶太人と基督教徒とを區別することが困難であるからであつたといふことである。蓋し猶太人でも基督教の洗禮を受けたらば基督教徒である。然るに今は反セム主義は人種的民族的であるので、人別について系圖調査をなすことが必要であるが、それ

が實行上困難であるから、政綱に掲げなかつたのである。

このドイツに於ける反セム運動は、從來賤視して來た猶太人によつて、ドイツ人が頭を抑へられることのないやうにといふ優越觀念の持續と、中產階級商工業者の猶太人の經營する大百貨店、市中行商、其の他によつて壓倒されたに對する反抗と、資本主義經濟に對する勞働運動とを兼ねたもので、猶太人が世界主義に傾き、國民として愛國心に缺けて居るといふことを基調として居る。從てこのドイツの反セム運動が東歐に影響した結果として、ドイツに移住する猶太人の增加するにつれて、國家の存立を危うするものとして益〻排斥の熱を高めた次第であつた。

十九世紀の初め西歐に於て猶太人の解放せられた頃東歐舊ポーランド領內の猶太人は、ロシアの治下に在つて、十八世紀以前ポーランドの治下に在つたときとは變つて、却て壓迫の憂目を見ることゝなつた。ロシヤの政策は猶太人の

其の領内の西部地方に制限して居住せしめる方針を執り、居住區域を指定した。ニコラス一世(一八二五―五五年)は殊に猶太人を抑へたが、アレキサンドル二世(一八五五―八一年)は猶太人の取締りを寛うし、壓迫の法令を改廢したから、猶太人は西歐に於けるやうな自由を享有し、中にはロシヤ化するものも出來た。併し全體からいへば指定地に居住せる猶太人は西歐に於けるよりも濃厚に集團的生活を持續して居るために、彼等特有の言語、戒律、服裝を維持して來たのである、彼等は多く諸種の工業に從事したが、此の頃西歐產業文明が東歐に輸入せられ、非猶太人の農民が都市に移住するものが多くなり、猶太人との生存競爭も激しくなつて、こゝに西歐に於けると同樣の排猶太の氣運が起つた。そして一八八一年には各地で猶太人に對する暴動が起つた。此の年はアレキサンドル二世が虛無黨のために暗殺され、アレキサンドル三世の即位の年であつた。帝は猶太人問題を調査させ、その報告によりて一八八二年猶太人の

居住、職業、教育を制限する法律を發布した。それによれば猶太人は指定された西部及び西南部ロシャの十五縣及びポーランドの十縣に居住を許可されたのみで、其の外帝國領内各地に居た猶太人は皆茲に移住を命ぜられて仕舞つた。只特に高等の學校を卒業した者とか、醫者とか、藝術家とか、大富商とか、軍籍に入つたものなど特別に政府の許を受けたものは、この指定地以外に居住する特權を與へられたけれども、それもその子供には恩典が及ばぬのであるから、成長の後には家庭を離れて指定地に移らねばならぬといふ次第であつた。尚ほ指定地內の猶太人は都市から村落へ移住することを禁ぜられた。猶太人は高等教育を受けるについて入學人員に制限を受け、就學の機會を與へられぬやうになつた。それで中學以上の學校入學に就ては猶太人同士の間に非常な競爭が起り、餘資のあるものは、ドイツ、フランス等に留學をせねばならぬこととなつた。官公吏の職は猶太人に對して閉鎖され、彼等が人口の過半數を占める都市

に於てすら市會議員の選擧權をも與へられないほどであつた。僅かに司法大臣の特許を得たるものは辯護士の職を營むことが出來た。猶太人は土地を買ひ又は借りる權利をも奪はれた。これは猶太人が農民の競爭者となるを防止する手段であつた。又猶太人が商工業の株式を所有するについても制限を加へ、一會社の株式を多數に猶太人に占められないやうにした。此の如くにして猶太人はあらゆる方面に於て權利を制限せられたが、義務は普通以上に負はされ、猶太人に限りて課せらるゝ特別の稅があつたり、士官になることは出來ないが、兵卒には徵發された。そして猶太人壓迫法の解釋運用は、ロシヤの官憲の手心によりて寬嚴の差が大であつた。指定地以外の地方にも賄賂によつて隨分居住が出來ぬこともなかつた。けれども彼等は禁令を犯して居るといふ弱味を有つて居るから、常に不安の生活を送り、時には夜間警官に襲はれて追ひ出されたりすることもあるが、又賄賂の手段によつて直ちに歸住することも出來ぬこともな

かつた。甚だしきは官憲が指定地内の都市をば村だと宣言して、俄かに猶太人全部を追ひ出すことさへあつた。ロシャの内務大臣であつたプレーブの如きは極めて猶太人嫌ひの人で、猶太人が革命を企てロシャの政府を倒さんとする隠謀をして居るなどゝいふことを宣傳させて、民衆の反猶太氣運を煽り立てた。これがために大規模の猶太人襲撃虐殺が度々起り、一九〇三年キシネフ地方に行はれた虐殺は、家を燒き財寶を奪ひ、五十人を殺し、五百人を傷けた。官憲はこの暴行を制止せんとせず、寧ろ暴動を援助したかの形勢であつた。それから一九〇五年から一九〇六年にかけて連續的に虐殺運動が行はれた。一九〇六年には千四百ケ處に暴虐が行はれ、二十萬乃至二十五萬の猶太人が暴行を加へられ、掠奪をせられたといふことである。

こゝに於てロシャ領内の猶太人はその悲慘な境遇から脱出せんがために、外國へ向つて移住を企てるに至つた。大部分はアメリカ合衆國へ向けて移民した

が、イギリス、ドイツ、フランス等へも移住した。一八八一年から一九〇八年までの間にロシヤから移住した猶太人は

合衆國へ　一、二五〇、〇〇〇人
イギリスへ　一五〇、〇〇〇人
ドイツへ　一五、〇〇〇人
フランスへ　三〇、〇〇〇人

を算するに至つた。そして猶太人の新移住民は皆大都市に集中した。かくて同化作用によりて漸く消滅せんとした猶太の色彩を再び顯著にするに至つたことは反セム主義を煽る動機となつた。

西歐の反セム主義はドイツばかりでなく、フランスに起つた。ドレーフス事件といふがその著しいものである。一八九四年ドレーフスといふフランス參謀本部附砲兵大尉が陸軍の機密をドイツに賣つたといふ罪に問はれ、軍法會議で

免官の上終身懲役の刑に處せられることゝなり、南米フランス領ギアナ附近の惡魔の島といふへ流刑になつた。ドレーフスは身に覺えなき中傷であることを辯じたけれども、彼の自筆の書類が動かぬ證據となつて、斯くは罰せられたのであつたが、翌年陸軍部内で、その證據書類がドレーフスの自筆にあらず、他人の僞筆であるといふことを發見した人が出て、再審すべき論を起した、ドレーフス一家は大富豪であつたので、金を散じて無罪の宣傳をした。然るにドレーフスは猶太人であつたので世間では彼に賣國行爲の有り得べきことを信ずるものが多く、ドレーフス辯護の地位に立つものを却て國賊呼はりをし、之に對して國民黨などゝいふ團結が出來た。又教會の方でもドレーフス及び一般猶太人の攻擊を初め世論が沸騰し政治問題となつた。其の中に證據書類の僞作者であるといふことを自白して一人の大佐が自殺したり、他の一人の少佐が英國へ出奔したといふやうな事件が起つて、遂にドレーフスの無實の罪は雪がれるこ

とゝなつた。反猶太の精神はかくの如く同僚を陷れんとした陰謀ともなつた。

英國では一九〇一年ロンドンでロシャ、ルーマニヤ、ガリシャ地方から逃げて來る猶太人の入國を排斥するの運動が起つた。

アメリカ合衆國には一八八〇年に約二十三萬の猶太人が居住して居たが、一八八〇年から一九一二年の間に合衆國へ移住した猶太人は二、二五八、一四六人であつてその六割はロシヤから來たものである。自由平等主義を國是とする米國にもこの猶太人の流入について反感が起つて居る。キユークラックスクラン(K・K・K)と稱する秘密結社が一九一五年に出來て、猶太人の外一般有色人並に加特力敎の排斥を主張し、「白人にして新敎徒たる米國生れの米國人のための米國」の實現を期して、時々暴行を敢てすることがある。

（九）シオニズム

十九世紀の晩年に及び、排猶太人運動が再興し。殊に東歐に於ては猶太人虐殺などが行はれたが、それは民族主義思想の勃興に由るものである。猶太人自身の間に於ては、十九世紀の初め以來自由と同權とを享有して、各その居住地の多數民族に同化せんとする勢を示して民族主義の精神と逆行したが、それと同時にまだ同權を賦與されないところや壓迫迫害さるゝところに於て、同權を共有したいとか、自由解放を得たいとかいふ運動を起すやうになり、自由主義運動として民族主義運動の色調を帶ぶやうになつたが、反セム主義の運動の各國に於て盛になるにつれ、遂には猶太國家をパレスチナの故地に再興せんとの純民族主義の運動が起るに至つた。シオニズムといふはそれである。

一八六〇年巴里に世界イスラエル人協會といふのが起つた。その目的は

一、到るところに於て猶太人の解放及び道義的增進を計ること
二、猶太人たる故に迫害に苦しむ同胞に援助を與へること
三、以上の目的達成のために出版物を獎勵すること
であつた。そしてその支部とも見るべき團體が一八七一年ロンドンに出來た。英國猶太人協會といふはそれである。又一八七三年にウイーンにもウイーン・イスラエル協會といふが起つた。
此の運動は同胞救濟のため、移民事業などを計つたのみならず、同胞の敎育のためにアジヤ、アフリカ方面に多數の諸種の學校を建設した。その資金は會員の醵出する會費の外特別寄附金を以て之に充てたのである。ついで一八七八年パレスチナの故地に國家を建設せんとする運動が起つた。それはペザック、チクヴアーといふ人の首唱により、巴里に住めるロヌチヤイルド男爵家のエドモンドといふ人が後援して、ロシヤの農民をパレスチナに植民せしめ、葡萄栽

培に從事させたのが發端である。一八八一年ロシヤに反セム主義の大騷亂起るに及び、オデッサの猶太人で醫師を業とするピンスケルといふものが、猶太民族解放のために、パレスチナ植民貫徹を期して一協會を組織し、本部をオデッサに、支部をロシヤの各都市に置くことにした。一八八四年にはウイーンに同樣の協會が出來た。一八九〇年にはロンドンにシオン同盟といふが起り、支部をベルリン、ニユーヨーク、パリ、チユーリツヒ、コーペンハーゲンに置いた。斯樣にして猶太人がパレスチナの故地にあこがれて歸つて來る形勢を見て、土耳其は心配し出した。それで一八九二年猶太人のパレスチナ移住を禁ずることゝした。然るにウイーンにテオドール・ヘルツルといふ人があつて、一八九六年「猶太國家」と題する書を公にし、猶太人の解放問題の唯一解決は猶太人國家の建設である。猶太人國家の建設は祖國パレスチナを回復することによつてのみ可能であることを說いた。この說に共鳴するものが多く、遂に一八

九七年同志（シオニストといふ）がスウイスのバーゼルに第一回シオニスト大會を開催した。世界各地から二百六名の代表者が出席し、ヘルツルの案によつて、綱領として、シオニズムの目的とするところは、パレスチナに猶太民族のために、一般に承認せられ、法律によつて保障された一の鄕土を建設するにあるといふことを決議した。これがシオニスト團體の創設であつて、このバーセル決議を承認するものは何人といへども會員たり得る旨を宣言された。シオニスト大會は第一回大會以來每年開會せられた。一九〇三年第六回大會の開かれた時、英國政府は英國のシオニストたるグリンベルグに書を送つて、東アフリカのウガンダ地方に於て、猶太人に廣大なる地域を提供して自治殖民地を建設せしめたいといふ意志を通じた。この事が大會に報告せられたけれども、當時最も困難な生活狀態に在るから、無條件でどんな土地へでも移住を厭はないであらうと思はれた。ロシャの猶太人側が、一致して强硬に反對した。併し英國

の折角の厚意を無にするも惡いといふので、一應實地を調査することゝなつたが、一九〇五年の大會で調査委員から見込がないといふ報告があつて、遂に英國に辭退することに決した。恰もよし、一九〇八年七耳其に青年トルコ黨の革命が起り、その結果新に制定された憲法で、同國內の各民族間に從來存在した差別的待遇を撤廢されたので、土耳其の保障の下にパレスチナに多數の猶太人を植民させて、猶太民族の特殊的文化を樹立し、實際上パレスチナを猶太民族の領土に化することが最善の策であると決せらた。

かくて一九一三年に開かれた第十一回大會では、エルサレムにヘブライ大學を建設することを可決した。此の年から從來ケルンにあつた執行委員本部が、ベルリンに移された。これはカイゼルがパレスチナに勢力を張らうといふ下心で、シオニズムを暗に利用せんとしたのであるとも想像される。

一九一四年世界大戰が勃發すると、交戰諸國のシオニストはそれ〴〵その國

の爲に軍務に服し、同族相食むといふ有様になつたので、建國運動の組織も自然崩壞せんとしたが、米國の委員が最も力を入れて、結局本部をベルリンから中立國のコーペンハーゲンに移すこととなり事業を維持するを得た。

さて英軍のエルサレム占領の近づいた頃、英國のシオニスト委員は英國首相及外相に面會して、建國の希望を述べた。之に對して當時の外相であつたバルフォアは一九一七年十一月二日英國猶太人代表者ロスチャイルドに書を送り、英國政府はパレスチナに於て猶太民族の國家的鄕土を建設せんとする運動に對して賛意を表し、且つ其の目的達成のために全力を盡くして其の利便を計らうといふ聲明を與へた。エルサレムは一九一七年十二月九日英軍の占領に歸し、パレスチナは今は英國の委任統治になつて、世界シオニズム執行委員本部がエルサレムに置いてある。そしてヘブライ大學は一九一八年七月廿四日に起工式を擧げ、英のワイズマン博士が第一礎石を据へた。英國よりはバルフォア氏出

席した。場所はスコープス山上の形勝を占め、一方はエルサレム市に面し一方はジョルダン流域と死海とを見下ろし、眺望絶佳であるといふことである。斯樣にして大學は出來たけれども、猶太國の建設は前途尙ほ遼遠であるといはねばならぬ。それはパレスチナではアラビヤ人の反對もあるし、猶太農業植民が成功せぬためである。猶太人は昔は農牧を事とした民族であつたけれども、亡國後は農業を捨てゝ仕舞つた上に中世以後に於ては耕地の所有賃借も許されぬ始末であつたために、僅かにロシヤに多少の猶太農民を見る外は、西歐には絕えて猶太農民を發見することが出來ない。それでパレスチナに移住した猶太民は農業に從事するものが少く、その大部分は都市的職業に從事せんとする。然るにパレスチナは石炭、鐵、織物原料、木材等を產出しないので、大產業の樹立には不適當である。それがために猶太人に取りては產業的活動の餘地はなく、只僅かに手工業を營む位のことである。而かも物價は移民の增加と共に騰貴す

るばかりである。斯樣な次第であるから、青年移住者の大部分は再び此地を棄てゝ海外へ移住しやうと企てるやうになり、パレスチナに踏み留まる者は年金その他によつて安樂に餘命を終らんとする老人が多いといふことである。

シオニズムは猶太人の民族主義的運動で、その贊同者は全世界に散在して居るが、規約に署名し會費を納める正式會員は一九一四年現在十三萬人に過ぎぬ。殊に西歐に於ける富有階級の如きは、シオニズム運動に對して物質的援助はするけれども、自分でパレスチナに移住しやうなどゝは毛頭考へては居らぬ。彼等はその在住國に於て他の市民と同權を享有し、物質的生活に於て優越の地位を占めて居るからである。但し彼等のシオニズム同情はまだ民族的感情を失はない證據であるといひ得る。であるから西歐の猶太人の中には此種の運動が却て反セム運動を刺戟することを恐れて、反對するものも多い。畢竟反セム主義とシオニズムとは相關聯して消長を共にするものである。

（十）猶太人の世界分布と世界主義

世界に於ける猶太人はどの位の人口を算へ得るであらうか、ヒツケルマン世界地圖に擧げた統計（一九二二年）によれば次のやうである。

		（人口百分比）
ヨーロッパ	一〇、三〇〇、〇〇〇	二、三
（内譯）		
ロシヤ	三、五〇〇、〇〇〇	三、六
ポーランド	三、一五〇、〇〇〇	一一、五
（ワルソー）	三〇九、〇〇〇	三三、
ルーマニヤ	八五〇、〇〇〇	五、二
ドイツ	五七〇、〇〇〇	〇、九
ホンガリヤ	四六〇、〇〇〇	五、八

（ブダペスト）	二一二、〇〇〇	二三、九
チエッコ・スロヴアキヤ	三五〇、〇〇〇	二、六
オーストリヤ	三〇〇、〇〇〇	四、六
（ウイーン）	二六〇、〇〇〇	一四、一
イギリス	三〇〇、〇〇〇	〇、六
リツアニヤ	一六〇、〇〇〇	七、四
フランス	一三〇、〇〇〇	〇、三三
オランダ	一一五、〇〇〇	一、六
ギリシヤ	一〇〇、〇〇〇	二、
（サロニカ）	六〇、〇〇〇	三五、
ラトヴイヤ	八〇、〇〇〇	四、三
ユーゴ、スラヴイヤ	六五、〇〇〇	〇、五

ヨーロッパ、トルコ	六〇、〇〇〇	三、三
ブルガリヤ	四〇、〇〇〇	〇、八
イタリヤ	三五、〇〇〇	〇、〇九
其他	四八、〇〇〇	
内		
スウイス	二一、〇〇〇	
エストニヤ	六、〇〇〇	
デンマルク	五、〇〇〇	
スウエーデン	四、〇〇〇	
ベルギー	四、〇〇〇	
ダンチヒ	三、〇〇〇	
フインランド	一、五〇〇	

ルクセンブルグ	一、〇〇〇	
ノルウエー	一、〇〇〇	
イスパニヤ	一、〇〇〇	
ポルトガル	五〇〇	
アジヤ	七八〇、〇〇〇	〇、〇八
（内譯）		
小亞	二五〇、〇〇〇	二、
シリヤ	一五〇、〇〇〇	五、二
アジヤ、ロシヤ	一〇〇、〇〇〇	〇、三
メソポタミヤ	八七、〇〇〇	三、一
パレスチナ	八一、〇〇〇	一〇、七
其他	一一五、〇〇〇	

内

ペルシヤ	三五、〇〇〇	
英領インド	二二、〇〇〇	
アフガニスタン	一四、〇〇〇	
アフリカ	五五〇、〇〇〇	〇、四
アビシニヤ	二〇〇、〇〇〇	二、五
モロッコ	一二〇、〇〇〇	二、八
エジプト	六〇、〇〇〇	〇、四
チユニス	四八、〇〇〇	二、三
アルジエリヤ	四五、〇〇〇	〇、八
南阿聯邦	六〇、〇〇〇	〇、六
其他	一五、〇〇〇	
アメリカ	二、〇〇〇、〇〇〇	〇、九

合衆國	一、八〇〇、〇〇〇	一、七
(ニューヨーク)	一、一〇〇、〇〇〇	二、〇
其他北米	一〇〇、〇〇〇	
南米	一〇〇、〇〇〇	
濠洲	二〇、〇〇〇	〇、〇二三
總計	一三、六五〇、〇〇〇	〇、七五

猶太民族は國亡びて後約二千年の今日滅亡當時の人口概算四百萬の三倍に達して居る。彼等が十九世紀前には國籍を有せず、何處の國でも外國人扱ひせられて居たこと、同族の弘く世界に散在して居ること、及びその居住國の他の人民から壓迫せられたことなどは猶太人をして超國家的の思想を抱かしめる原因の重なるものであらう。中世以來猶太の富豪はその金力の運用に於ては世界主義的傾向を採つて、近世資本主義經濟を發達せしめたが、同じく猶太人から出

たカール・マルクスが資本主義に對抗して、社會主義を唱へ、かの共產黨宣言書に於て無產階級の世界的連合を叫んだ。かくて第一インターナショナル、第二インターナショナルの如き國際的の勞働運動が起つた。この運動にたづさはつて居るものは猶太人ばかりではないが、その鬪士の中には猶太人の名が多く見える。尙ほロシャに起つた第三インターナショナルの領袖連には猶太人が多いことは周知の事である。

次に猶太人は常に壓迫せられ虐待されたので、同族間に共濟といふことが必要であつた。これがために慈善救濟に關する事業は猶太人の間に早く發達した、猶太敎徒の信仰では、富といふものは必要に應じて貧民に其の一部を割き與へんがため、神から依托された依托品であると考へて居る。從て喜捨施與といふことを以て猶太人の正しき生活の要素として居る。この主義を詮じつめると共產主義にも轉じて行くのである。又同族救濟の考を擴げると國際的、世界

的に人類平和の事業の改善努力ともなり得るのである。猶太人でそういふ事業にたづさはつて居る人も多いやうである。

（十一）猶太人の陰謀説

猶太人が非猶太人の國を亡ぼす陰謀をして居るといふ説が我國には相當に根を張つたやうに思はれる。

西洋にフリーメーソンリーといふ結社がある。それは中世ヨーロッパに行はれた石工の組合の名殘ではあるが、實は十八世紀の初め頃、人格修養の目的に性質を變じたものである。組合員には親方、職人、弟子の三階級があり、彼等の集會所をロッヂ（團舍）といふて居る。この組合は宗教的のものでない、又政治的のものでもない。世界主義的運動であつて、平和を高唱し博愛を高唱するものゝやうである。けれども社會主義や、共産主義の運動とは異つて貴族や

富豪や知識階級の間に蔓つて居る。アメリカ合衆國にも大に擴がつて、一九一〇年の調によれば、合衆國内に團舍が五十餘、團員が百五十萬人あると稱せられる。そして猶太人が多く好んで入團して居ることは事實である。畢竟猶太人の信仰自由に傾いたものゝ中に生じた世界主義的性質が之に適合する所以であらうと思はれる。

フリーメーソンリーの團員に猶太人が多數あることは、反セム主義者をしてメーソンリーに疑を抱かしむるに至つた。メーソンリーは決して秘密結社ではない。その集會所の如きは公然人の知るところで、その團長も團員も知られて居るが、其の內部のことは秘密とせられて、決して團員外に公言することをしない。これが疑惑の種子である。

反セム主義者はメーソンリーを稱して猶太人が世界を猶太化すべき運動機關であるといひ、その團員は全部猶太人ではないが、猶太人の隱謀の道具に使は

れて居るものと解釋して居る、アメリカ合衆國の獨立に當り、獨立宣言書に署名した十三州の代表者五十六名中五十二名がメーソンリーの團員であつたのみならず、建國に力のあつた知名の士や、獨立戰爭に參加した最高武官十五將軍が悉くその團員であつたなどゝ、例證に擧げられて居る。

猶太人は革命や騷擾を喜び、その間に利を得んと計るとの疑は、彼等が致當の事情や及びその居住する國家に對する愛國的精神に缺けて居るところがある事實から推して、世界に於ける古來の革命の裏面には猶太人の暗中飛躍があつたことを斷することは必ずしも誤りではないかも知れないが、私はそれがために猶太民族に陰謀民族の名を負はすことを不當だと信ずる。世界大戰爭の終りに於てロシヤ、ドイツ、オーストリヤ三帝國に革命があつた。そして何れも猶太人の力が多かつたことは事實である。けれどもこれ等の革命黨が社會主義者であるに對して、メーソンリーのブルジョア階級であるといふことの矛盾を看

過する譯にはゆかぬ。

アメリカ合衆國の獨立は英國に對する叛逆であつた。革命であつたに違ひない。けれどもその獨立に力を致した人は只亂を好むがために事を起したのでなくて、獨立國家の建設に努力したことを否定することは出來ない。第一大統領ワシントンや、第三大統領ジェッファーソンがメーソンリーの團員であつたとか、第二大統領アダムスが猶太人であつたといふことは、米國の立場からいふ時には決してメーソンリーや猶太人を危險視する理由を見出し得ないのである、隱謀說を唱へる人は猶太人はローマ人にデモクラシーの病魔を巧みに皷吹し、民權自由思想を普及し、ローマの統一を破ぶり、先づ東西に分れ次に四分せしめ遂に滅亡せしめたなどゝいふて居る。この論法を以てすれば、米國の獨立は英國で起つた自由民權論の實現したもので、英の領土を二分せしめ、英米二國を對立競爭せしめて、遂には二國を滅亡に導くべき猶太人の隱謀の一過程

であるかのやうに說くべきであらうが、私は猶太人が無自覺の間に、聖書の豫言に從つて、全世界をシオン帝國たらしめる準備をして、世界的運動をなしつゝあるといふやうなことを信ずることは出來ない。酒井勝軍氏の著「猶太人の世界征略運動」に、イスラエル世界同盟の秘密に付して居る作戰計畫として示された左記の條項

一、世界の全權を掌握する事
二、新聞を利用し非猶太人を籠絡する事
三、非猶太人の信仰を破壞し、基督教を四分五裂せしむる事
四、家族主義を破壞する事
五、忠君愛國心を涵養する學校及びその擁護者たる軍隊を撲滅する事
六、凡ての國有地を猶太人の手に入るゝ事
七、各國の立法者たる權利を獲得する事

八、辯護士或は醫師を獨占して非猶太人殊に基督教徒の權利及び生命を左右する事
九、非猶太人中に賤民を増加せしむる事
十、猶太民族の計畫遂行の便となるべき世界的攪亂及び革命等に努力する事

や、英國に於て十九世紀末發表せられたプローコールと稱する猶太人陰謀の證據書類などについては、その出所來歷についての說明に未だ十分信憑すべき根據を承認し得ないことを遺憾とするものである。

ロシヤの共產主義は吾が國體と容れないところがある。アメリカのデモクラシーも亦吾が國體と合はないところがある。我國民の思想を赤化せしむることも、米國化せしむることも、共に危険である事はいふまでもないが、それは人種民族上の問題でない。思想上の問題である、經濟上の問題である。殊に我國

には猶太人の居住するものは曉天の星ほどもあるまいと思はるゝのに、さまで猶太人を恐るゝには及ばぬのである。ロシヤの第三インターナショナルの社會共產主義は米國の資本主義とは氷炭相容れざるものである。そして國際政局に於ても當分到底二國は握手する事の出來ぬものであらう。此の間に處する我國の立場に甚だ六ケ敷いところがあるが、それは猶太人問題とは別問題である。

私は猶太人の隱謀といふよりも、前述したやうに猶太人が近世國家の建設や帝國主義政策の爲めに利用されつゝあるを感ずるものである。ナポレオン一世は既に一七九九年埃及遠征に當り、アジヤ、アフリカの猶太人に檄して、聖地を彼等に與へエルサレムを復興せしむることを約束して從軍せしめんとした。この時猶太人は動かなかつたが、その後カイゼルウイリヤム二世がシオン運動を保護したが如き、英國政府が或は猶太人を利用してアフリカ殖民地の開拓を企て、或はパレスチナ占領に先ちてシオニストに建國を承認した如きは、寧ろ

猶太人が强國の世界政策の野心の傀儡となつて居るものであるまいか。

(十二) 反省

西洋人が猶太人を排斥するのは、昔は宗教の爲めであつた。今は經濟的の原因もあるが、單に感情のために支配さるゝものが多い。猶太人であるといふことが何となく嫌な氣がするらしい。旣に基督敎に改宗した人でも、猶太系の苗字はそれと直に分り易いので、あゝあれは猶太人だなどゝ毛嫌いさるゝ事がありがちの樣子である。私はドイツで度々そういふことを耳にした。或る小學校敎師の家庭に下宿して居た時、屢々宿の者がその隣家に住む猶太人の家族が綺麗に着飾つて出あるくのを指して、彼等はあのやうに着飾つて出歩くけれども、家内では實に汚なく取ちらして有るとか、共同で使用する通路をよごすばかりで掃除をして吳れぬとか、隨分惡口を聞かされた。その僻猶太人の經營す

る商店へ買物に行くから、私はあの店は猶太人の店であるに何故に基督教徒が買ひに行くかといへば、安いから仕方がないと降參して居た。百年前には猶太人の子供等がベルリン市中で基督教の子供のために後から石を投げられて猶太々々と呼ばれたといふことである。今日はそんな迫害はないやうであるけれども、基督教徒が猶太人だと罵られて憤ることは事實であるやうである。さやうにまだ猶太人に對する差別的賤視觀念が去らないやうである。畢竟現代の猶太人排斥は理智の問題でなくして感情の問題であるからである。猶太人は基督教徒から長い間侮蔑せられ嫌惡せられて來たけれども、彼等自身は益々選民といふ自尊的自覺を強くし、たとひ、基督教徒から何と謂はれやうとも一向頓着せず、家庭生活の清淨無垢なることに於ては、遙かに基督教徒に優るものあることを基督教徒にさへ認めさせるほどである。金錢にかけて意地汚いやうに譏らるゝけれども、慈善事業、社會事業に資金を惜まず投じて居る人が多い事は事

實である。決して金錢の奴隸になつて居るのが猶太人の本性であるとはいへぬ、そして金力の上に於ても學藝の上に於ても猶太人は基督教徒の頭を抑へて居るものが多い。それが却て反セム主義の種子となつて居る。これは理屈ではない。只感情の問題である。猶太人が長い間別人種として區別されて居た傳統的差別感が容易に消えないのである。

我が國に於て數年前より水平社運動が起つたことは、明治維新賤民の稱を廢せられたに拘はらず差別觀念の容易に消滅しなかつたに激成されたのである。是れ素より差別するものゝ罪であつて大に反省せなければならぬところである。けれども西洋にて猶太人に對し百年以前に同權を賦與した諸國に於て尙ほこの差別觀が消滅せず、却て死灰再び燃えだした觀のあることを思ふとき、水平運動の糾彈問題の如きは却て、反動として差別觀念を再び盛にするの原因となる恐れあるを思はねばならぬ。反セム運動に對してシオニズムが起つたこ

とは、却て反セム運動を激成せしめた所以であることを思はねばならぬ。

私は水平社同人にモセス・メンデルスゾーンの如き自由と寛容との精神を以てカントを感歎せしめ、ラバーテルを慚愧せしめたやうな宏量の態度が望ましいと思ふて居る。水平運動が首唱するところの人間禮讃、その期するところの人類最高の完成といふことは、我が國がヴェルサイユ平和會議に提出したる人種平等機會均等の原則の理想に合致し、之を貫徹すべき方法に異ならざるものであつて、獨り水平社同人のみならず國民を擧げてこれが實行に努力せねばならぬところである。私は人種平等の主張を貫徹せんがために、アジャ人聯盟を唱へ有色人の結束を計るは却て人種鬪爭を激成する所以だと信ずる。白人種が白人のための米國を唱ふるが如き偏狹なる思想はその背後には宗教上の理由もあり、政治上の理由もあり、經濟上の理由もあらうけれども、長い慣習で東洋人を劣等視して居る感情の力が與つて大なるものあることを忘れてはなら

ぬ。猶太人の不正が誇大せられ正義が割引せらるゝと同様、東洋人は不利の地位に置かれて居る我が少數部落の同胞と多數の同胞との關係も亦これに外ならぬ。知識にせよ、道德にせよ、保健にせよ、水平以上に上つても、なほ同等に見做されぬ恨がある。こゝに於て吾人は知育德育體育の標準を白人の水平以上に置きて精進する心懸けを要する。

このために吾等は同胞融和一致協力理想の貫徹に勇往邁進せねばならぬ。基督敎徒が猶太人に對し持つて居る差別觀はその宗敎の相違とその人種別とが原因をして居るけれども、我國の少數同胞は喜田博士のかねて唱道して居らるゝ通り異民族ではない。種々の事情により生存競爭に落伍して、かゝる境遇に沈淪しただけの事であつて、その系圖をたゞせば、皇別もあらう、神別もあらう、よし蕃別だとて何も異民族扱ひの必要はない。我國では桓武天皇の御母后の系圖は歸化人であり、その祖先を祀つた神社が山城の官幣大社平野神社であ

る。日本の神道は外國人を祭ることを拒むものではない。猶太敎や又は基督敎のやうな偏狹な性質のものでない。偉大なる包擁性を持つて居る。それだから佛敎を入れて神佛併び行はれて來た。只神道の不淨を忌み、佛敎の殺生を禁ずるの敎が社會落伍者をして不淨の職業を世襲させることゝなつて、こゝに職業による一種の賤しき階級が出來たことは遺憾である。けれどもその本に遡つて見ると決して猶太人のやうな別種ではない。而して宗敎も別になつて居ないのである。私は差別觀念を一掃するがためには、國史敎授の普及を謀り、融和促進の方法としては猶太人の散居と集團的生活とが、基督敎徒との間の感情融和の難易に及ぼす影響の少なからざることを鑑みて、融和事業に理解ある人が努めて少數部落の散居を奬勵するやうにし、亦進んで部落內に雜居するやうにしたいと思ふ。朝鮮人の內地に移住するものゝ如きも、追々集團的部落を形くりつゝあるやうである。これもなるべく散居せしむる方法を取るべきである。要

するに感情の融和といふことには、相接する機會が多くて相互に知り合ふことが必要である。私は各地方に於てこの機會の多く作られんことを切望する。

水平運動が朝鮮の衡平運動と提携し、或は無産階級運動と提携し、或は他の國際的運動に加はらんとするは、境遇の一様なるところあるがために同情が起り、同一の理想に向て突進せんとする所以であらうが、同一民族たるシオニストでさへ、世界大戰の際には敵味方に分れて戰ひ、同一理想の下に提携して居た國際社會主義運動さへも破綻を生じたことを思ふとき、國家の力の大なるものあるを私は感ぜざるを得ない。一民族一國家は我國の國體その儘で世界國家の理想であると思ふ。內鮮などゝいふ差別の存ずる限り、水平運動と衡平運動とはピッタリ合はないものが出來る。部落差別觀念の存する限り無産階級運動とは提携し得べきものではない。無産階級が優越の地位を得た場合に於て再び古い誤つた考の系圖の調査が初まらぬとはいへぬ。(私のいふ眞正の系圖調査は

徳川時代に於ける差別觀の不合理なることを教えるものであるけれども）私は無產階級運動などゝ稱する階級別に即した運動は、國の存立上危機を藏するものと考へる。古來國家の衰亡せるものは、國內の階級鬪爭に因るものが多い。猶太民族の古い歷史も亦それを物語つて居る。凡そ社會には階級の別のないことはあり得ない。併し階級の新陳代謝が容易に行はれ、固定しないところには、階級の別がないといひ得る。アメリカはデモクラシーを以て國是として居る。而かも國民の貧富の差は天地の如き大なる隔たりがある。大統領とその自動車の運轉手とは、大なる地位の隔たりがある。此の如き差別が儼として存在して居るにも拘はらず、理想の平等主義が實現して居ると稱せられて居る。それは個人の能力に應じて各〻その所を得せしむるやう機會を均等ならしめたところに、米國のデモクラシーがある。平等がある。能力の異つた人々をして同一の地位に在らしむるは不平等である。

我が江戸時代は士農工商の階級を固定した。分を守れとの教育を主としたけれども、その間に立身出世といふことを目的とせしめた點に於て、アメリカ式デモクラシーに似た點のあつたことを認める。寺小屋の教科書であつた、近道子寶に

智惠才覺を以て多利を取るが町人の高名手柄也

とある。又商賣往來の末尾に

終には富貴繁昌子孫榮華之瑞相也、倍々之利潤、疑ひなき條仍て件の如し

とある。又百姓往來の末尾に

正直第一の輩は終には子孫永く富貴繁昌の家となり、佛神の冥加に叶ふ事疑ひあるべからず仍て件の如し

とある。支配階級に屬した武士には金錢を賤しむべきことを敎へたが、百姓町人には富をすゝめた。かくて社會階級の地位に埋合せがつけられて居た感があ

る。

明治天皇の五ケ條御誓文に庶民をして各その志を遂げしめやうとの御叡慮によつて、六十年の間に著しい社會的階級の新陳代謝が起つた。新華族はその數に於て華族全體の三分の一を占め、新舊華族の間にはさしたる差別觀念が起って居ないし、又士族平民の族稱も全く無意義になつて仕舞つた。こんな社會的變化は西洋にては見受けられないところであるといふてよい。畢竟日本人の階級意識は西洋人のやうに深刻でないからである。新貴族を成り上りものとして輕蔑する觀念は古今東西何處の國にもあるが、我國ではそれが昔から甚しくない。平忠盛が昇殿を許された時、其眇目なるを嘲つて、伊勢平氏（瓶子）は醋甕だと笑ひ合つた藤原氏の一門が、忠盛の子清盛の代には、悉くその鼻息を窺はねばならやうな破目に陷り、當時平氏でなければ人でないといはれた程であつたでないか。

又我國民は昔は支那朝鮮の文化を輸入し、その國人を尊崇して來た。維新前には一時西洋人を夷狄視したことはあつたが、それは彼等をよく理解しなかつたためで、一旦その長所を認めると、西洋人崇拜が初まり、その文明の心酔者となつて、今度は支那人朝鮮人を蔑視するやうになつた。輕佻浮薄なやうであるが、その實、正直に僞りなく心に思ふところを告白しつゝあるかの感がある。併しそれは集團的の考へ方であつて、個人的には或る西洋人は或る日本人に劣り、或る朝鮮人は或る內地人に優るものあることを誰しも怪しむものはあるまい。

由來日本人はデモクラシー思想を有つて居る。包擁性に富んで居る。昭和の御代には一切の差別觀念が一掃せられ、元號の出典と拜承する協和萬邦の事實が實現し得るやう、一日も早く先づ國民融和の事業を完成せねばならぬ。

（昭和二年三月三日）

昭和二年五月七日印刷
昭和二年五月十日發行

【定價金貳拾錢】

東京市麴町區元衞町社會局構內
中央融和事業協會代表者
發行人　谷　龍之助

麴町區麴町八丁目一番地
印刷人　杉田彌太郎

麴町區麴町八丁目一番地
印刷所　杉田屋印刷所

東京市麴町區元衞町社會局構內
發行所　中央融和事業協會
振替口座東京七〇〇八六番

'69.4.22 朝日

ほんとうの教育者はと問われて ㉒

福島正夫

学問の道、実践で示す

自分に厳しく人に謙虚

新見吉治

魯迅は「藤野先生」でのべている。「夜ごと、仕事に倦んでなまけたくなるとき、仰いで灯火のなかに、彼の黒い、瘦せた、今にも抑揚のひどい口調で語り出しそうな顔を眺めやると、たちまちまた私は良心を発し、かつ勇気を加えられる」と。私は上海の魯迅博物館でこの写真をみた。私には、いま新見吉治文学博士のお姿がこれに当るように思われる。

先生は明治七年十月生れ、九十四歳、広島文理大学名誉教授である。本年一月、門下の吉田太郎教授らのお骨折りで、「分け登る歴史学の山路」二八七ページの書を上梓（じょうし）された。中学時代、一高時代、東京帝大文科大学時代、大学院時代、ドイツ留学……と系統的に書かれ、一見自伝風である。ただちがうのは、学問以外とくに歴史学以外のことは、何ものせられてない。扉（とびら）に

日は暮れぬ　史学の山路　ふみ迷い　ふもとの小路　行きつもどりつ

の一首がある。志を立て郷関を出て、上京されたとき、日記帳の表紙に書かれた題が「分け登る山路の記」だった、という。

貴重な資料残す

そうした日記帳、大学の講義筆記帳が保存され、先生の強記と関係資料をもとに、この本が編まれた。一高では箕作元八先生に西洋史、那珂通世先生に東洋史を習った。大学入学は明治三十年、坪井九馬三、リース、栗田寛、三宅米吉、宮崎道三郎、三上参次等の諸先生の講義を聞いた。ドイツでは有名な史学のランプレヒト、法制史のゾーム等の指導をうけた。それらの講義内容、指導方法や、その間ご自分の草された論文などが概要を紹介され、貴重な資料である。大学時代に歴史哲学論戦がなされたというのも興味深い。ドイツでは、ランプレヒトが「日本史講義」をしている。

本来私は先生とは専門をことにし、直接ご講義を拝聴した者でもない。しかし以前からご論著は拝読しており、近年ある研究から先生のご知遇をえることとなった。数年前お宅にうかがったとき、先生は私に一時間半にわたって目下のご研究構想をのべられた。くたくたになって帰ると、おいかけて一通のご書状がとどき、談話中の誤りを是正されていた。

一昨年末、先生は胃病で大量吐血、病院に運ばれた。九十をこえるご高齢で、もはや、と危ぶまれたが、奇蹟的に回復、昨年一月末退院された。その直後また先生の自筆書状がとどいた。当時朝日新聞にのった壬申戸籍の廃棄問題について、この貴重な史料の保存を図るように、とのご趣旨であった。

元気な新見吉治氏（東京都町田市高ケ坂の自宅で）

戦後公職パージ

こういうと、いかにも学問の鬼みたいだが、それは先生ご自身についてであって、他に接するには実にご謙虚である。この点戦前二年ほど出入りさせていただいた津田左右吉博士と軌を一にする。この青二才を同輩扱いで十分に聞きまた懇々と説かれた博士のお話は、いまも新鮮な感じで私の耳に残っている。

先生の直接のお弟子にうかがった。広島文理大時代の先生の学生指導は、荒い言葉づかいは一切なく、つねに和気あいあいとしていた。だが、講義の準備はきわめてきびしく、十分準備してこないでは、学生は教室にはいれなかった。

退官後の先生は、史学の大家として大倉精神文化研究所でご勤務、研究上指導的役割を果された。そのため戦後公職、教職のパージとなり、公私とも窮地におちいられた。その解除まで五年間、先生はただ一言のぐちももらされず、時たま訪問する教え子たちに、熱心に歴史学の話のみされたという。

教育者としての先生の本領は、要するに、学問の道は徹底するにあると、実践によって示されたことにあると思う。このようなご精進は、世界の学界にも稀有（けう）というべき、八十路をすぎての、いくたの学問的業績としてあらわれた。七十九歳『下級士族の研究』、八十五歳『壬申戸籍に関する研究』、いずれも大著である。九十一歳『改訂増補下級士族の研究』、九十三歳『旗本』。その間、専門誌にいくたの論文を寄稿され、それには若人の最新の研究も数多く引用されていた。

先生の日常起居は、規則的である。昭和二十八年夫人を失われたのちは三女の紀美さんが身辺を世話されているが、朝は六時、七時に起床、読書にとりかかられる。毎日六時間の研究、あとは午睡やテレビに悠々（ゆうゆう）と暮される。いまとりくんでいられる課題は「公家社会の研究」。この成稿に余年を献げる覚悟と、前掲著の序文にあるが私もお見舞にうかがったとき、「私の寿命がそれまで続いたら」と先生はもらされていた。

永遠に若い頭脳

国立大学紛争で深刻な問題の一つは、教授対助手の対立である。青年学徒は研究の先端をゆき、教授は権力に座する。はなはだしきは研究所専任というめぐまれたポストを、何の業績もなく定年までふさいだ教授もあるとか。こうしたことのもとである、日本学者の早老説を痛快に粉砕したのが、先生である。

七十四歳で「マリーエンバードの悲歌」を書き八十二歳でファウスト第二部を完成したゲーテを、人は「永遠に若いゲーテ」とよぶ。わが新見先生は、頭髪こそ雪のように白いが、頭脳は若々しく青年の初心そのままに、生命つきる日まで働きつづけられるであろう。

（早大客員教授・民法）

朝日新聞

発行所
朝日新聞大阪本社
大阪市北区中之島3丁目3番地
郵便番号 530
電話大阪231局0131番(大代表)
郵便振替口座 大阪550番

第二部

結成二十周年を記念する北大西洋条約機構（NATO）の理事会が去る十、十一の両日、ワシントンで開かれた。ニクソン米大統領が演説し、閉会に当って、東西関係改善への可能性を探究するというコミュニケが発表された。北米大陸と欧州の主要な十五カ国の閣僚が集った会議としては、迫力に乏しいものであったというほかはない。

北大西洋条約がワシントンで調印されたのは、一九四九年四月四日のことである。第二次大戦が終った時には、世界の平和は国連に頼って守るということになっていたのが、北大西洋条約の調印によって、西欧諸国はソ連の侵略を阻止し、侵略が起った場合には、これに抵抗するために、アメリカの軍事力を借りるという政策を採用したのである。戦後の世界にしのびよっていた東西両陣営の冷戦は、これによって本格化することになる。

時代の変化を反映

NATOとはもともと、起り得べきソ連の侵略に対して軍事的対応策をたてるために生れたものだ。したがって、NATO理事会のコミュニケが余り迫力がないということは、

利益よりも優先したことである。そこで、結果としては、両陣営のリーダーであるアメリカとソ連の意見が、それぞれの陣営の中でほとんど抵抗なくまかり通ることとなった。

一九五八年ごろから、このような両極時代に変化が現れはじめた。東でも西でも陣営内部に対立が生れ、表面化した。西ではフランスが指導者顔のアメリカに反対しはじめた。そして、ドゴール仏大統領は、ヨーロッパにアメリカの勢力がのさばっているのは好ましくないという立場に立って、ヨーロッパ人のためのヨーロッパを旗印にして、国際政治における発言権を強めるのに成功した。東では、中国がソ連の指導と命令に反対しはじめた。世界は両極時代から多極時代へと移りはじめたのである。

危険

…懸念

宮地 健次郎

をすすめたといえよう。そういう世界では、東と西のどちらかが、少しでも譲歩することは、イデオロギーの敗北として受けとられるから、東西の対立は不必要なまでに激烈にならざるを得ない。

戦後第二期の特徴は、民族主義と国家意識が強まったことである。イデオロギーが同じだから、いつまでも仲よくやっていけるはずだったソ連と中国が、ついに国境で武力衝突を行うところまで来てしまった。同じ西側の陣営に属するイギリスとフランスが、会っても口もきかぬといわんばかりの仲たがいをするようになった。これらは、ソ連、中国、イギリス、フランスなどが自国の威信と利益を第一に考え、自分自身の判断に立って対外政策をおしすすめるようになったことを意味している。

第二期のもう一つの特徴は、先にもふれた東西間の緊張緩和の傾向の強まりである。それはイデオロギーの相違をこえて、フランスと東ヨーロッパ諸国、ソ連と日本との関係が

先という思想が残っていたにしても、チェコ側は、民族意識と国家主権の尊重の主張という第二期の思想に立って行動しようとした。そして、ソ連とチェコとの討論では、第一期の思想は第二期の思想を説得することが出来なかった。そこで、議論に負けたソ連は武力に訴えたといっていいだろう。アメリカもソ連も、第二期の世界で第一期的発想の対外政策をすすめたために、前者はベトナムで、後者はチェコで、その政策の愚かさを全世界にさらすことになったといえないだろうか。

新たな情勢の胎動

さてこの辺で、今年に入ってからの国際政局の動きに目を転じてみよう。これまでに起った出来事のなかから、国際情勢に大きな影響を及ぼしそうなものとして、ニクソン米大統領のヨーロッパ訪問、弾道弾迎撃ミサイル（ABM）網配置に関する修正決定、中ソ国境衝突の三つを取上げたい。

ニクソン大統領のヨーロッパ訪問については、アメリカがフランスの自主外交の立場を尊重するという立場を明らかにしたことが重要であ

意見と提案

チャーチルとドゴール

第二次世界大戦後の世界の動きを、曲りかどで的確に捕えたのは、いずれも、第二次大戦中の指導者でもあった西欧の政治家だった。

一人は、故ウィンストン・チャーチル元英首相、もう一人はフランスのドゴール大統領である。

一九四六年三月五日、米国ミズーリ州フルトン市でチャーチルは有名な〝鉄のカーテン〟という言葉を残した。

――バルチック海のシュテッチンから、アドリア海のトリエステまで、一つの鉄のカーテンが欧州大陸を横切っている。これらの都市や住民は、ソ連の勢力圏にあり、ソ連の影響、強力で絶えざる支配を受けている。ソ連の求めているもの